２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	キャリアプランニングⅡ （ Carrier planningⅡ ）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	矢作　友規
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 （2）	開講区分	前期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日４時限

【授業の学習内容】

将来のキャリア設計を行うと共に、社会人として必要な社会常識や、気構え・身構え・心構えなどを発揮出来る様になる。

【到達目標】

■業界に出て即戦力となり得る一般教養を身に付けることが出来る。
■自立型協働社会人として、自ら考え行動し、周りを巻き込むことが出来る。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション　1年間のキャリアプランニングを理解する
2回目	コミュニケーショングループワーク：グループワークを通し、リーダーシップ・フォロワーシップを理解する
3回目	コミュニケーショングループワーク：グループワークを通し、リーダーシップ・フォロワーシップを理解する
4回目	業界研究 / 成功した先輩たちの事例①　コミュニケーショングループワーク：グループワークを通し、リーダーシップ・フォロワーシップを理解する
5回目	業界研究 / 成功した先輩たちの事例②　コミュニケーショングループワーク：グループワークを通し、リーダーシップ・フォロワーシップを理解する
6回目	業界研究 / 成功した先輩たちの事例③　　学園祭について①
7回目	キャリアデザイン / 合同企業説明会に向けて①、チームマネジメント/学園祭について②
8回目	キャリアデザイン / 合同企業説明会に向けて②、チームマネジメント/学園祭について③
9回目	業界研究 / 合同企業説明会振り返り　　チームマネジメント/学園祭振り返り
10回目	キャリアデザイン / 夏季休暇に向けて①　インターンシップ・就職活動における姿勢
11回目	キャリアデザイン / 夏季休暇に向けて②　インターンシップ・就職活動における姿勢
12回目	キャリアデザイン / 夏季休暇に向けて③　インターンシップ・就職活動における姿勢
13回目	キャリアデザイン / 夏季休暇振り返り　チームマネジメント / スポーツフェスタイベント内容の話し合い（ホスピタリティマインドを学び、チーム力を養う）
14回目	チームマネジメント / スポーツフェスタイベント内容の話し合い（ホスピタリティマインドを学び、チーム力を養う）
15回目	チームマネジメント / スポーツフェスタイベント内容の話し合い（ホスピタリティマインドを学び、チーム力を養う）
準備学習 時間外学習	事前課題や調べ学習を行い、授業に臨む。
評価方法	1. 授業態度　（30%） 2. 各種レポート、その他提出を求めるもの　（50%） 3. 出席　（20%）

【使用教科書・教材・参考書】

・新社会人の基礎力109（滋慶出版）
・オリジナルPowerPoint

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	キャリアプランニングⅡ （ Carrier planning Ⅱ ）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	矢作　友規
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 （2）	開講区分	後期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日４時限

【授業の学習内容】

将来のキャリア設計を行うと共に、社会人として必要な社会常識や、気構え・身構え・心構えなどを発揮出来る様になる。

【到達目標】

■業界に出て即戦力となり得る一般教養を身に付けることが出来る。
■自立型協働社会人として、自ら考え行動し、周りを巻き込むことが出来る。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション　後期のキャリアプランニングを理解する
2回目	業界研究/チームマネジメント　研修前の調べ学習①
3回目	業界研究/チームマネジメント　研修前の調べ学習②
4回目	業界研究/チームマネジメント　研修前の調べ学習③　発表と共有
5回目	業界研究/チームマネジメント　研修前の調べ学習④　発表と共有
6回目	業界研究/チームマネジメント　研修後の振り返り①
7回目	業界研究/チームマネジメント　研修後の振り返り②　発表と共有
8回目	チームマネジメント / 進級課題制作①、We are ECO②
9回目	チームマネジメント / 進級課題制作②、We are ECO②
10回目	チームマネジメント / 進級課題制作③、We are ECO③
11回目	チームマネジメント / 進級課題制作④、We are ECO④
12回目	チームマネジメント / 進級課題制作⑤、We are ECO⑤
13回目	チームマネジメント / 進級課題制作発表①
14回目	チームマネジメント / 進級課題制作発表②
15回目	1年間振り返り
準備学習 時間外学習	事前課題や調べ学習を行い、授業に臨むこと。
評価方法	1. 授業態度 （30%） 2. 各種レポート、その他提出を求めるもの　（50%） 3. 出席 （20%）

【使用教科書・教材・参考書】

・新社会人の基礎力109（滋慶出版）
・オリジナルPowerPoint

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	キャリアサポートアップ （ Improving Career Skills ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	中山　麻見/中村　里佳
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 （2）	開講区分	前期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日2限目

【授業の学習内容】

就職活動の基本である自己分析と企業研究の必要性を学び、志望動機、自己PRを完成させ、履歴書を自立して作成できるようになる。
また発声練習やグループワークを通して、効果的な自己表現を可能にし、自信を持って面接に挑み、結果を手にしていく。

※担当教員：各種セミナー（話し方、傾聴、新入社員研修等）を通して人材育成事業に取り組む企業より就職講座・コミュニケーション講座等に従事している講師を招き、授業を実施。

【到達目標】

・自己分析（理解）によって、自分の強み、弱みを効果的に伝えられるようになる。
・履歴書、エントリーシートが自立して書けるようになる。
・自己分析、企業研究によって、自分の目指す企業のマッチングが可能になり、適切な面接対策ができる。
・個人面接、集団面接など、様々なケースを想定し、ロールプレイングを通じて、自己表現に自信が付く。
・小論文の基本的書き方を習得する。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション　就職活動において現在地を確認し、ゴール設定ができる
2回目	自分の適性を知る　分析ツールを使って強みの原点を把握できる
3回目	自己分析の基礎①希望業種に内定するために現状を知り、就職活動の全体像を掴むことが出来るようになる
4回目	自己分析の基礎②希望業種に内定するために現状を知り、就職活動の全体像を掴むことが出来るようになる
5回目	企業研究・業界分析の仕方について①　グループワークを行い広い視野を養うことができる
6回目	履歴書の書き方　　形式を遵守した上で、自分らしい履歴書が書けるようになる。
7回目	面接対策①　面接の全体像が把握できる
8回目	面接対策②　見た目・中身の両方に対する戦略が分かる
9回目	面接対策③　模擬面接　お互い分析、フィードバックすることで客観的に自分を把握することができる
10回目	WEB面接対策
11回目	適性検査対策
12回目	論理的文章の書き方　作文・小論文　①
13回目	論理的文章の書き方　作文・小論文　②
14回目	試験
15回目	総まとめ
準備学習 時間外学習	配布物で予習・復習を行うこと。
評価方法	試験80%　提出物20%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルプリント

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	社会人基礎力 （Essential Competencies for the Working Adult）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	中村　里佳
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30	開講区分	後期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業		2	曜日・時限	月曜日 2時限

【授業の学習内容】

会社が求める人材像を明確にすることで、働くことの意味を理解し、ビジネスパーソンに必要な考え方・行動・スキルを身に付けることができるよう以下3つのスキルを学習する。
・考える力、論理的思考能力
・組織やPDCA、ホウレンソウなど、基本的な企業のしくみや働き方
・コミュニケーションスキル、ビジネスマナー

※担当教員：各種セミナー（話し方、傾聴、新入社員研修等）を通して人材育成事業に取り組む企業より就職講座・コミュニケーション講座等に従事している講師を招き、授業を実施。

【到達目標】

学生から社会人へと自己意識を変革させる。
働くことの意味を理解し、ビジネスパーソンに必要な考え方・行動・スキルを身に付けることができるよう、以下3つのスキルを習得する。
後期以降の就職活動に役立つ能力を身に付ける。
・考える力、論理的思考能力
・組織やPDCA、ホウレンソウなど、基本的な企業のしくみや働き方
・コミュニケーションスキル、ビジネスマナー

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション／アイスブレーキング、自己紹介、ゴール提示、会社が求める人材とは何か
2回目	社会人とは／社会人と学生の違い、ビジネスパーソンに必要なこと
3回目	考える力・書く力／考える・書く力を養い論理的思考能力を身に付ける、マインドマップ作成
4回目	企業・組織とは／組織のしくみ、PDCA、チームワーク、指示系統
5回目	ビジネスマナー
6回目	企業・組織とは／報告・連絡・相談
7回目	企業・組織とは／報告・連絡・相談
8回目	企業・組織とは／リーダーシップとは何か、組織での立ち位置、目標設定
9回目	コミュニケーションスキル／コミュニケーションスキルの磨き方（傾聴）
10回目	コミュニケーションスキル／コミュニケーションスキルの磨き方（傾聴）②
11回目	発信力　自分の意見をわかりやすく伝える力
12回目	発信力　自分の意見をわかりやすく伝える力　②
13回目	意見の違いや立場の違いを理解する力
14回目	試験
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	次週の授業内容の範囲を、教科書を読み、わからない言葉・言い回しを抜き出しておくこと。
評価方法	試験80％　授業内評価（発表など）20％

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルテキスト

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	中国語	必修選択	必修	年次	2	担当教員	李　霜華
	（Chinese Language Skills）	授業形態	演習	総時間（単位）	30	開講区分	前期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業		(2)	曜日・時限	水曜日 2時限

【授業の学習内容】

本校の指導方針に従って、基礎から丁寧に指導し、特に発音と声調を正しく身につけさせ、将来の仕事で使えるように、最初から良い基盤を築いていく。また、仕事現場に役立つため、普段の授業では、発音、文字、文法の重要なポイントをわかりやすく説明し、仕事用の単語、フレーズを覚えるように繰り返し練習する。クラス全員で楽しく勉強し、授業を確実に一歩一歩進める。

※担当教員：福岡漢語学院学院長/留学支援センター長。長年に亘り、日本言語学と教育方法学の理論に基づき、エキスパートとしての中国語教育に従事。
現在福岡ウェディング＆ホテル・IR専門学校や中国上海交通大学外国語学院などで中国語講師を歴任。

【到達目標】

グローバル化社会に於いて適応力が高い人間になるため、コミュニケーション能力、特に外国語のレベルが問われるという意識を持って、中国語を身につける重要性が認識できる。また、中国語の自己紹介をはじめ、日常会話、ビジネス会話、将来仕事現場の中国観光客に対するサービス提供ができるように、今から少しずつ進んでいく。更に中国語の勉強を通じ、中国・日本・アジアの文化について興味を感じ、深く理解する。卒業後、様々な仕事場で習った知識を生かし活躍している場面を頭に思い浮かべながら、日々の努力によって語学力を徐々に高めることができる。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション、中国語概況について理解できる。発音の勉強、練習を経て、中国語で簡単な自己紹介できる。
2回目	中国語の発音を復習し、挨拶の言葉を身につけることができる。また自己紹介の内容を増やし、少しずつ覚えることができる。
3回目	自己紹介が流暢にできる。これからの仕事に関係がある単語、中国語検定試験用の単語を勉強し覚えることができる。
4回目	簡単な接客用語、中国観光客へのサービス会話を身につけることができる。検定試験の内容を導入し、資格を取ることができる。
5回目	自己紹介の内容を充実させ、就職面接に向かって、中国語で自分の特徴をアピールすることができる。
6回目	今までの勉強内容を復習し、自己チェックをしてから、身につかなかった部分を補うことができる。
7回目	将来の職場の場面を設定して、中国語で対応できるように、会話を身につけることができる。
8回目	リスニングの練習をして、聴力をアップすることができる。また、全面的に復習して、検定試験に向かうことができる。
9回目	就職面接の会話を練習し、流暢に話せる。単語の量を増やし、様々な場合でコミュニケーションを取ることができる。
10回目	決まった言い方、フレーズなどを暗記し、仕事場ですぐ使えるように、工夫することができる。
11回目	簡単な自由会話ができるように、授業中各方法でコミュニケーション能力を高めることができる。
12回目	前期の学習内容を全面的に復習し、授業効果を一層高めることができる。
13回目	最終的にまとめ、自信を持って期末試験に向かうことができる。
14回目	評価週、期末試験（リスニング・会話・筆記試験を含む）
15回目	まとめ、反省会、これからの課題を決めて、更に高い目標を目指して頑張ることができる。
準備学習 時間外学習	授業の前に、復習・予習が必要で、単語、フレーズを随時に暗記すること。 インターネット上の中国語を聞いたり、練習したりして、できるだけたくさんの言葉を覚えるように努力すること。
評価方法	●授業態度（30%） ●小テスト（20%） ●定期テスト（50%） 割合で成績評価を行う。

【使用教科書・教材・参考書】

発音練習資料、オリジナルの会話プリント、市販の中国語検定試験問題集、単語書、参考書等

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	中国語	必修選択	必修	年次	2	担当教員	李　霜華
	（Chinese Language Skills）	授業形態	演習	総時間（単位）	30	開講区分	後期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業		(2)	曜日・時限	水曜日 2時限

【授業の学習内容】

将来の仕事に使えるオリジナル教材を使用し、前期の勉強を踏まえ中国語の基礎を更に固め、発音・文法・会話を中心に深く指導していく。授業の内容を身につけるだけでなく、自らの勉強を通じて問題解決の能力を高めるよう期待する。プリントを配り、日常会話・ビジネス会話を繰り返し読んだり暗記したりさせ、流暢に話せるまで練習する。また、中国語検定試験の希望者が合格できるように数十年の教育経験を活かし、試験問題を解くノウハウを丁寧に説明し、目標を目指して頑張ってもらう。□

※担当教員：福岡漢語学院学院長/留学支援センター長。長年に亘り、日本言語学と教育方法学の理論に基づき、エキスパートとしての中国語教育に従事。
現在福岡ウェディング＆ホテル・IR専門学校や中国上海交通大学外国語学院などで中国語講師を歴任。□

【到達目標】

グローバル化社会に於いて適応力が高い人間になるため、コミュニケーション能力、特に外国語のレベルが問われるという意識を持って、中国語を身につける重要性が認識できる。また、前期の続きとして、中国語の自己紹介をはじめ、日常会話、ビジネス会話、将来仕事現場の中国人観光客に対するサービス提供ができるような専門用語などを少しずつ覚え、卒業するまでに中国語が話せるようになる。中国語検定試験合格も目指す。

授業計画・内容	
1回目	前期に習った内容を全面的に復習し、発音・四声・イントネーションについて徹底的に練習することができる。
2回目	前期に続き、中国語検定試験の問題を取り上げて、各部分に分けて、詳しく説明することによって、そのノウハウを理解することができる。
3回目	過去問の練習について一回ずつ自分の目標を立てて、その達成感を味わいながら、更に高い目標へ進むことができる。
4回目	習った言葉を徹底的に練習しながら、日常会話の場面を設定して、学生同士で学び合うことができる。
5回目	リスニング力をアップするため、音声教材を導入し、生き生きとする中国語を勉強することができる。
6回目	今までの勉強内容を復習し、自己チェックをしてから、身につかなかった部分を補うことができる。
7回目	将来の仕事現場を想像して、実用的な言葉、フレーズをしっかり勉強し、練習することができる。
8回目	グループディスカッション形式で中国語の単語、フレーズ、会話を復習することができる。
9回目	仕事現場に必要な言葉（館内放送用など）をまとめ、正しい発音で読むことができる。
10回目	緊急事態の専門用語を勉強しておいて、将来の仕事に対応することができる。
11回目	今まで習った内容を復習して、冬休みの宿題が十分やれるように勉強しておくことができる。
12回目	後期の学習内容を全面的に復習し、授業効果を一層高めることができる。
13回目	期末試験前の総合的な復習、口頭試問の答えも十分に練習することができる。
14回目	評価週、期末試験（リスニング・会話・筆記試験を含む）
15回目	試験問題をまとめて説明した後、各人にそれぞれの課題を見つけてもらい、新しい目標を目指して進むことができる。
準備学習 時間外学習	単語の暗記・会話の練習・過去問題の学習、復習を随時行うこと。 中国語のドラマも出来るだけ見てください。
評価方法	●授業態度（30%） ●小テスト（20%） ●定期テスト（50%） 割合で成績評価を行う。

【使用教科書・教材・参考書】

日常会話、ビジネス会話のプリント・中国語検定試験過去問プリント、単語集

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	グローバルコミュニケーション（Global Communivcation）	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	ILC国際語学センター
		授業形態	講義・演習	総時間（単位）	120	開講区分	前期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業		(8)	曜日・時限	水曜日 4時限、金曜日 5時限

【授業の学習内容】

リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、
また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。

※担当教員：英語教授に関する資格を持ち、かつ英語教授経験が2年以上。主に専門学校で基礎英語の授業を担当。

【到達目標】

知人・家族について話すことができる。職場でのフォーマルなメールを読む、また書くことができる。毎日していることについて話すことができる。
ポッドキャストについての意見を読む、また書くことができる。今していることについて話すことができる。サービス業界の会社へのメッセージを読む、
また書くことができる。招待する、またそれに応えることができる。イベントへの招待を読む、また書くことができる。人生の中での過去のイベントに
ついて話すことができる。新しい場所での経験についての投稿を読む、また賛成・反対の反応を書くことができる。
店内で欲しいものについて述べることができる。新しい商品の説明を読む、またVlog（ビデオブログ）のためのスクリプトを書くことができる。

授業計画・内容			
1回目	所有代名詞(whose)を学ぶ	オンデマンド	対面授業と連動
2回目	自己紹介をする。職場でのフォーマルなメールを読む、書く	オンデマンド	対面授業と連動
3回目	習慣・ルーティンについて質問する。[Wh-question]を練習する	オンデマンド	対面授業と連動
4回目	繰り返しを求める表現を学ぶ。意思疎通に問題があったことを説明する	オンデマンド	対面授業と連動
5回目	スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「仕事や勉強のためのアプリについて発表する」	オンデマンド	対面授業と連動
6回目	「現在進行形」「単純現在形」を練習する。スポーツ、運動について話す	オンデマンド	対面授業と連動
7回目	サービス業界の会社へのメッセージを読む、書く	オンデマンド	対面授業と連動、振り返り。中間試験。
8回目	将来のことを説明する際に使う「現在進行形」を学ぶ。将来のプランについて話す	オンデマンド	中間試験解説、前期後半に向けて
9回目	招待する、招待に応える表現を学ぶ。招待を断る理由を説明する	オンデマンド	対面授業と連動
10回目	スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「プレゼントを選ぶについて」	オンデマンド	対面授業と連動
11回目	「過去形」（陳述文の否定形；疑問文）を復習する	オンデマンド	対面授業と連動
12回目	新しい場所での経験についての投稿を読む、また賛成・反対の反応を書く	オンデマンド	対面授業と連動
13回目	[be going to]を復習する買い物に行くことについて会話する	オンデマンド	対面授業と連動
14回目	店内で欲しいものについて述べる。物事の言い方を英語で聞く	オンデマンド	対面授業と連動、振り返り。
15回目	前期発表。	オンデマンド	期末試験。期末試験解説、後期に向けて

準備学習 時間外学習	授業内容の予習と復習を行うこと。
評価方法	実技試験50% 授業態度50%

【使用教科書・教材・参考書】

EVOLVE2

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	グローバルコミュニケーション （Global Communivcation）	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	ILC国際語学センター
		授業形態	講義・演習	総時間（単位）	120 (8)	開講区分	後期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日 4時限、金曜日 5時限

【授業の学習内容】

リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの4技能を統合的に学び、興味関心のあることについての簡単な文章の読み書き、
また買い物やその他の日常生活についての平易な会話ができるようになる。

※担当教員：英語教授に関する資格を持ち、かつ英語教授経験が2年以上。主に専門学校で基礎英語の授業を担当。

【到達目標】

レストランで頼みたいものについて説明することができる。ファストフード店についての記事を読む、また記事に対する反応を書くことができる。
提案をする、また提案をうけることができる。海外生活についてのアドバイスを読む、また書くことができる。意見を尋ねる、また述べることができる。
広告を読む、また写真の説明を書くことができる。将来の予想を立てることができる。アドバイスについてのメールを読む、また書くことができる。
したことがあること、ないことについて話すことができる。インフォグラフィックを読む、セルフィーについての短いコメントを書くことができる。
天気について話すことができる。場所についての説明を読むことができる。方法についての説明リストを書くことができる。

授業計画・内容			
1回目	キッチンカーをデザインする「動詞型」を学ぶ	オンデマンド	対面授業と連動
2回目	ファストフード店についての記事を読む、また記事に対する反応を書く	オンデマンド	対面授業と連動
3回目	[if / when]の使い方を学ぶ。自分の町で何をするかについて話す	オンデマンド	対面授業と連動
4回目	「問い返し疑問文」を学ぶ。提案をする、また提案をうける表現を学ぶ	オンデマンド	対面授業と連動
5回目	スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「短期旅行のプランを立てる」	オンデマンド	対面授業と連動
6回目	「形容詞の最高級」を学ぶ。写真に写った人について話す	オンデマンド	対面授業と連動
7回目	広告を読む、また写真の説明を書く	オンデマンド	振り返り。中間試験
8回目	[have to]の使い方を学ぶ。職場での危険を回避することについて話す	オンデマンド	中間試験解説、後期後半に向けて
9回目	[It feels like (it' s like)]を使い、健康問題について話す；健康問題についてアドレスをもらう	オンデマンド	対面授業と連動
10回目	スピーキング：ロールプレイ・プレゼンテーション「リアリティ番組を計画し、発表する」	オンデマンド	対面授業と連動
11回目	ソーシャルメディア（ネット）生まれの動詞を学ぶ	オンデマンド	対面授業と連動
12回目	インフォグラフィックを読む、セルフィーについての短いコメントを書く	オンデマンド	対面授業と連動
13回目	[be like]を使い、天気について話す	オンデマンド	対面授業と連動
14回目	道を聞く、道順を教える際に使う表現を学ぶ。言い改める際に使う表現を学ぶ、復習する	オンデマンド	振り返り
15回目	後期発表。	オンデマンド	期末試験。期末試験解説、後期に向けて

準備学習 時間外学習	授業内容の予習と復習を行うこと。
評価方法	実技試験50% 授業態度50%

【使用教科書・教材・参考書】

EVOLVE2

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	水生生物研究 (Aquatic Biology)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	渕上　信好
		授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日3時限

【授業の学習内容】

1. 生体を使った授業。画像・文よりも「命ある実物」から学び感じる。 基礎知識の意味をより分かり易く繰り返し提示する。
2. 記録を残す習慣を付けたいので、配布したスケッチブックの講師チェックは評価対象とする。
3. 前期は主として河川生物中心。

※担当教員実務経験：国土交通省遠賀川河川環境保全モニター（審議会・検討会・現場指導）：1995年～現在継続中。
NPO直方川づくりの会（河川環境教育・ビオトープ管理）：2006年～現在継続中。

【到達目標】

①無脊椎動物の大まかな（門・目レベル）分類ができる。
②生体スケッチによってそのカタチを自分の体に入る（体が覚える）ようになる。
③採集地データから生息環境がイメージできる。
④最新の情報（水生生物の時事ネタ）に関して、自分の考えが言えるようになる。
⑤生物を使った環境教育ネタを体験しておく。

授業計画・内容	
1回目	①②③河川水生昆虫類　1（カゲロウ・カワゲラ）
2回目	①②③河川水生昆虫類　2（トンボ・その他）
3回目	①②③淡水エビ・カニ類　1　（ヌマエビ類・テナガエビ類）
4回目	①②③淡水エビ・カニ類　2　（サワガニ・モクズガニ）　⇒　④時事ネタ　1
5回目	①②③水中カメムシ類　（タイコウチ・オオアメンボ）　⇒　⑤環境教育への展開（水の凝集・凝着・ベッコウ飴）
6回目	①②③水生甲虫類　（ゲンゴロウ・ガムシ・ミズスマシ・ヒメドロムシ）
7回目	■評価試験および振り返り
8回目	①②③圃場の三大生きた化石　1　（ホウネンエビ）　⇒　④時事ネタ　2
9回目	①②③圃場の三大生きた化石　2　（カブトエビ・カイエビ）　⇒　⑤圃場の治水面の話し（たんぼダム）
10回目	①②③奈多漁港のロープ付着生物　総合分類
11回目	①②③淡水二枚貝　（シジミ類・ドブカイ）
12回目	①②③淡水巻貝　（タニシ類・カワニナ・スクミリンゴガイ）
13回目	①②③淡水の節足・軟体動物門のまとめ
14回目	■評価試験および振り返り
15回目	ここまでの生物の学生リクエストテーマ⇒希望種を採集しテーマとする
準備学習 時間外学習	参考書：フィールド総合図鑑　川の生物　山海堂 参考図鑑：日本産水生昆虫図説　東海大学出版会 参考図鑑：世界大博物大辞典　別巻2　水生無脊椎動物　平凡社 生物の範囲が広いので本校図書館の書籍・雑誌を乱読のこと。
評価方法	●中間試験　25% ●期末試験　25% ●ノート点　50%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルレジュメおよび資料

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	水生生物研究 (Aquatic Biology)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	渕上　信好
		授業形態	演習	総時間（単位）	30	開講区分	後期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業		(2)	曜日・時限	月曜日3時限

【授業の学習内容】

1. 採集生物を淡水産から海水産の割合を多くして、総合的な分類と生息環境および生態系へと導く。
2. 海獣類の餌や人の食糧となる魚類の寄生虫は、濃縮毒性実験を実施。
3. 両生類やコケ植物等のAQAペットショップの商品となっている生物も採集可能な範囲で取り上げる。

※担当教員実務経験：国土交通省遠賀川河川環境保全モニター（審議会・検討会・現場指導）：1995年～現在継続中。
NPO直方川づくりの会（河川環境教育・ビオトープ管理）：2006年～現在継続中。

【到達目標】

①自分の興味のある水生生物（2種でよい）について、人が食い付く話ができる。
②無脊椎動物の大まかな分類ができる。
③対象生物の生息場所・採集方法・運搬方法が8割程度は分かる。
④生物種に応じた標本の作り方・危険な薬品等の知識が分かっている。
⑤授業ノートが習慣になっている。

授業計画・内容	
1回目	①イカ・タコ類　１（基礎編）　●濃度計算（水族館採用試験対策）
2回目	①イカ・タコ類　２（解剖・雑学・利用）　●濃度計算（水族館採用試験対策）
3回目	①②④クラゲ　２　（展開）
4回目	②③④奈多漁港ロープ付着生物　総合分類　２
5回目	①②④タイドプールの棘皮動物　（ウニ・ヒトデ・ナマコ）
6回目	①両生類　（アカハライモリ・カスミサンショウウオ）
7回目	■評価試験および振り返り
8回目	②③④　干潟の無脊椎動物　総合分類　●環境数学（水族館採用試験対策）
9回目	①④寄生虫（アニサキス・ニベリン条虫）
10回目	①②③海岸打ち上げ生物　ピンポイント解説
11回目	③苔類
12回目	①④海岸打ち上げ生物　総合分類　（海藻をメインに）
13回目	④福岡県侵略的外来種の講師フィールド調査報告
14回目	■評価試験および振り返り
15回目	①②③④⑤本年度の特筆採集生物のまとめ
準備学習時間外学習	参考図巻：日本産水生昆虫図説　東海大学出版会 参考書：フィールド総合図鑑　川の生物　山海堂 参考図鑑：世界大博物図鑑　別巻２　水生無脊椎動物　平凡社 その他、生物の範囲が広いので本校図書館の書籍・雑誌を乱読のこと。
評価方法	●中間試験　25% ●期末試験　25% ●ノート　50%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルレジュメおよび資料

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	魚類学実験 (Fish Laboratory)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	渕上　信好
		授業形態	演習	総時間（単位）	60	開講区分	前期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業		(4)	曜日・時限	月曜日4・5時限

【授業の学習内容】

1. 講師採集生物を用いた実習・演習と板書講義を平行して実施。講義は1年次「魚類研究」の復習を含む。
2. 実習・作業は、個人・グループ単位での細かい指導と繰り返し（慣れる）が基本。最後までやり遂げるコトを良しとする。
3. 学生の行動が落ち着いた時点（安全性）で、徒歩で行ける博多湾にて野外実習を行う。
4. 「水生生物研究」と同様にメモの習慣を付けさせたいため、ノートチェックは基本的に毎回実施。

※担当教員実務経験：国土交通省遠賀川河川環境保全モニター（審議会・検討会・現場指導）：1995年～現在継続中。
NPO直方川づくりの会：2006年～現在継続中。

【到達目標】

①魚類検索図鑑を7割程度使いこなすことができる。
②授業後の片付けの重要性が分かり、作業工程を逆算して考える事ができる。
③実験や作業で使う道具は、必要に応じて自分で考案・制作する意識を持つ事ができる。
④目的に応じた解剖の段取りができる。
⑤目的・対象魚類に適合した標本作りが6割程度説明できる。

授業計画・内容	
1回目	①魚類検索スケッチ中級　その1 （プロポーションと部位計測） ③竹ピンセットの作成
2回目	①魚類検索スケッチ中級　その2 （細部スケッチ・計数データ記入） ③竹ピンセットの作成
3回目	②④⑤透明骨格標本　その1（理論・行程・薬品解説）　＋　「1・2回目」の仕上げ
4回目	②④魚類解剖の基本　その1 （主目的を絞る⇒準備⇒実施⇒修正⇒まとめ⇒片付け） ■⑤透明骨格標本作業継続
5回目	③②④骨格図の模写と魚類の重要な骨摘出（耳石・肩甲骨・烏口骨） ■⑤透明骨格標本作業継続
6回目	①河川地点採集サンプル総合分類河川中上流　その1 （魚類生息環境・出現種一覧表） ■⑤透明骨格標本作業継続
7回目	■評価試験および振り返り　＋　ここまでの中途作業の仕上げ
8回目	②③博多湾・博多埠頭での釣り実習　その1（イベント企画者の立場　＋　現場ロープワーク）
9回目	⑤魚類剥製 （概説・作業）　＋　①検索用サンプルの展翅（ホルマリン標本用として）
10回目	②③後期に向けた魚類アート入門（毛筆画、アクリルペイント、米粉粘土）
11回目	②④魚類解剖　その2（目的・準備・麻酔・実施・処理・まとめ・展開・片付け）
12回目	①河川地点採集サンプル総合分類　2　河口域 （魚類生息環境・出現種一覧表の作成）
13回目	②④大型魚類胃内容分析
14回目	■期末試験　＋　ここまでの補足作業
15回目	学生希望テーマ授業
準備学習 時間外学習	参考図書：日本産魚類検索　―全種の同定―　東海大学出版会 その他、本校図書館の魚類関連図書・雑誌を乱読しておくこと。 また、最新情報としてネット情報も活用すること。
評価方法	●中間試験　25% ●期末試験　25% ●ノート点　50%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルレジュメおよび資料

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	魚類学実験 (Fish Laboratory)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	渕上　信好
		授業形態	演習	総時間（単位）	60	開講区分	後期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業		(4)	曜日・時限	月曜日4・5時限

【授業の学習内容】

1. 前期同様に採集および購入魚類を用いた実習と板書講義の様式とするが、作業の割合を大きくする。
2. 同じ場所での別作業となるので、時間設定、道具の使い回し、人の導線など「段取力」を指導する。
3. 実験・作品制作の作業は、正しい失敗を繰り返しながら最後まで仕上げる事を目標とする。
4. 魚類から派生する「モノづくり」は、職場でのイベント等における発想・企画・経費計算に役立てたい。
5. 研修・早期就職で授業参加困難な学生は、前倒しで計画を立て作品提出へと指導して行く。

※担当教員実務経験：国土交通省遠賀川河川環境保全モニター（審議会・検討会・現場指導）：1995年～現在継続中。
NPO直方川づくりの会（河川環境教育・ビオトープ管理）：2006年～現在継続中。

【到達目標】

①魚類から派生する作業について「知っている」ではなく「やったコトがある」で話すことができる。
②実験等において「段取り力」が一定のレベルに達している。
③様々な製品を見て「用」「強」「美」の観点で評価できるようになる。
④この授業を通して様々な視点から魚類を語る事ができる。
⑤実験や作業で使う工具・用具を安全に使いメンテナンスがそこそこできる。

授業計画・内容	
1回目	①②④⑤魚類麻酔薬・魚病薬の研究 （市販薬品の検討と個人用自作）
2回目	④果物アート （雨プログラムの組み方） ■米粉粘土アート 継続
3回目	①②③アクリル加工 （透明骨格標本・剥製ケース・野外観察写真撮影用ケースおよび小型水槽） ■米粉粘土アート 継続
4回目	①②透明骨格標本 ２ （継続作業のまとめとして）
5回目	①②③⑤塗装の基本知識と実践作業 （水性・油性・漆） ■米粉粘土アート 継続
6回目	①②④⑤秋の釣り大会 in 博多埠頭 （学生企画）
7回目	①④発泡スチロール加工 （多用途） ＋ 竹素材の魚類ハンドリング用品加工（小型のタモ網ほか）
8回目	①魚類地点調査サンプル総合分類（1年次の「魚類研究」総まとめ）
9回目	①④ルアー製作 ■米粉粘土アート 継続
10回目	①②④魚類デザインのパンケーキ （食育イベントのバリエーションとして）＋ 燻製（キャンプメニューとして） ■ルアー製作 継続
11回目	①②③④魚類注連縄づくり （圃場生物環境・藁素材・伝統文化） ■ルアー製作 継続
12回目	①②④UVレジン （ 義眼・魚類部位を封入したアクセサリー）と剥製
13回目	■作品提出 追い込み （間に合いそうにない学生の分まで協力して作成）
14回目	■作品提出 受付締め切り （早期就職の学生の分まで協力して作成）
15回目	学校備品の修理と教室の大掃除 （感謝をこめて楽しそうに掃除をする）
準備学習 時間外学習	参考図書：日本産魚類検索 ―全種の同定― 東海大学出版会 その他、本校図書館の魚類関連図書・雑誌を乱読しておくこと。 また、最新情報としてネット情報も活用すること。
評価方法	●作品提出 50% ●ノート点 50%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルレジュメおよび資料

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	水生生物飼育管理Ⅱ（ Aquatic Animals and Plants Rearing Ⅱ ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	平　隼人/田中　侑弥
		授業形態	演習	総時間（単位）	60	開講区分	前期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業		(4)	曜日・時限	火曜日5時限　&　金曜日4時限

【授業の学習内容】

実際に海水水槽の管理をグループで行い、管理に付随してくる事柄に関して演習形式で指導を行う。

※担当教員実務経験：
　平　隼人：サカナヤデザイン代表。アクアリウムデザイナー。
　田中侑弥：水族館にて9年間、水生生物等の飼育業務に従事。

【到達目標】

海水水槽オーバーフローシステム水槽を中心とした取り扱い及び管理法を習得する。
チームのメンバーの作業進捗状況を把握し、効率的に水槽メンテナンスを行う。
トラブルが起きた際の対処方法を考え、行動する。

授業計画・内容	
1回目	各水槽システム取り扱い説明・人工海水の作り方
2回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
3回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
4回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
5回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
6回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
7回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
8回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
9回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
10回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
11回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
12回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
13回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
14回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
15回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
準備学習 時間外学習	生物の飼育は日々観察することが重要。学校内全ての水槽を毎日必ず生体の状態及び飼育設備をよく観察し、異常がある場合は速やかに対処すること。 水生生物の飼育法は様々なので、様々な飼育法を理解できるように常日頃実習室全ての水槽設備をよく観察し理解できるように。 できる限りショップ・水族館の見学を行い、それぞれの飼育法の違い、生体の状態の違いをよく観察すること。
評価方法	■授業内評価　80% ■授業出席率　20%

【使用教科書・教材・参考書】

第一・第二アクア実習室、海水魚水槽

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	水生生物飼育管理Ⅱ（ Aquatic Animals and Plants Rearing Ⅱ ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	平　隼人/田中　侑弥
		授業形態	演習	総時間（単位）	60 (4)	開講区分	後期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日5時限　&　金曜日4時限

【授業の学習内容】

実際に海水水槽の管理をグループで行い、管理に付随してくる事柄に関して演習形式で指導を行う。

※担当教員実務経験：
　平　隼人：サカナヤデザイン代表。アクアリウムデザイナー。
　田中侑弥：水族館にて9年間、水生生物等の飼育業務に従事。

【到達目標】

海水水槽オーバーフローシステム水槽を中心とした取り扱い及び管理法を習得する。
チームのメンバーの作業進捗状況を把握し、効率的に水槽メンテナンスを行う。
トラブルが起きた際の対処方法を考え、行動する。

授業計画・内容	
1回目	各水槽システム取り扱い説明・人工海水の作り方
2回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
3回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
4回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
5回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
6回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
7回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
8回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
9回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
10回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
11回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
12回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
13回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
14回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
15回目	①海水魚大水槽（ドライ濾過）②サンゴ水槽（ベルリンシステム）③海水魚集中ウェット濾過水槽1 ④集中ウェット濾過水槽2⑤淡水大型魚オーバーフロー水槽をグループローテーションでメンテナンスを実施　適宜説明
準備学習 時間外学習	生物の飼育は日々観察することが重要。学校内全ての水槽を毎日必ず生体の状態及び飼育設備をよく観察し、異常がある場合は速やかに対処すること。 水生生物の飼育法は様々なので、様々な飼育法を理解できるように常日頃実習室全ての水槽設備をよく観察し理解できるように。 できる限りショップ・水族館の見学を行い、それぞれの飼育法の違い、生体の状態の違いをよく観察すること。
評価方法	■授業内評価　80% ■授業出席率　20%

【使用教科書・教材・参考書】

第一・第二アクア実習室、海水魚水槽

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	観賞魚研究Ⅱ （ Ornamental Fish Ⅱ ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	田中　侑弥
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	火曜日2時限

【授業の学習内容】

海洋生物に関する知識及び、飼育用品・機材・設備を学ぶ。
またそれらを応用して、濾過槽別に水槽の立ち上げやメンテナンスを学び、実習する。

※担当教員実務経験：水族館にて9年間、水生生物等の飼育業務に従事。

【到達目標】

海洋性魚類・無脊椎動物・海藻類の飼育に必要な飼育設備、水質維持管理に関する基礎知識を習得し、飼育に必要な環境を整え飼育管理を行えるようになる。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション、シラバス説明
2回目	水の化学と海洋学
3回目	淡水生物と海洋生物の違い①
4回目	淡水生物と海洋生物の違い②
5回目	アクアリウムにおける海洋生物の種別解説①
6回目	アクアリウムにおける海洋生物の種別解説②
7回目	アクアリウムにおける海洋生物の種別解説③
8回目	海洋生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法①
9回目	海洋生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法②
10回目	海洋生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法③
11回目	海洋生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法④
12回目	海洋生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法⑤
13回目	期末試験範囲振り返り
14回目	期末試験と振り返り
15回目	期末試験返却、前期まとめ
準備学習 時間外学習	数千種にも及ぶ海水魚の種類とその飼育方法を講義の中だけで全て把握する事は困難である為、常日頃から図鑑・飼育本などをを参照し知識の蓄積に努める。 並行して実際に観賞魚店・水族館などを訪れ、生体・飼育器具・飼育方法など生の情報収集行う。 定期的に発行されるアクアリウム専門誌などにも目を通し、最新の情報・新商品・新着魚種などにもアンテナを張る。 実際に自宅で海水魚の飼育が行えればなお良い。
評価方法	■筆記試験：80% ■授業・実習態度：20%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルテキスト、PC

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	観賞魚研究Ⅱ（ Ornamental Fish Ⅱ ）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	田中　侑弥
		授業形態	演習	総時間（単位）	30	開講区分	後期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業		(2)	曜日・時限	火曜日2時限

【授業の学習内容】

海洋生物に関する知識及び、飼育用品・機材・設備を学ぶ。
またそれらを応用して、濾過槽別に水槽の立ち上げやメンテナンスを学び、実習する。

※担当教員実務経験：水族館にて9年間、水生生物等の飼育業務に従事。

【到達目標】

海洋性魚類・無脊椎動物・海藻類の飼育に必要な飼育設備、水質維持管理に関する基礎知識を習得し、飼育に必要な環境を整え飼育管理を行えるようになる。

授業計画・内容	
1回目	海洋生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法⑥
2回目	海洋生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法⑦
3回目	海洋生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法⑧
4回目	海洋生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法⑨
5回目	海洋生物飼育用品・機材の種類と取り扱い方法⑩
6回目	海水水槽の立ち上げと日常管理①
7回目	海水水槽の立ち上げと日常管理②
8回目	海水水槽の立ち上げと日常管理③
9回目	海水水槽の立ち上げと日常管理④
10回目	大型施設の日常管理における注意点
11回目	水族館資料鑑賞
12回目	海水魚の病気・治療方法について
13回目	期末試験範囲振り返り
14回目	期末試験と振り返り
15回目	期末試験返却、前期まとめ
準備学習 時間外学習	数千種にも及ぶ海水魚の種類とその飼育方法を講義の中だけで全て把握する事は困難である為、常日頃から図鑑・飼育本などをを参照し知識の蓄積に努める。 並行して実際に観賞魚店・水族館などを訪れ、生体・飼育器具・飼育方法など生の情報収集行う。 定期的に発行されるアクアリウム専門誌などにも目を通し、最新の情報・新商品・新着魚種などにもアンテナを張る。 実際に自宅で海水魚・無脊椎動物の飼育が行えればなお良い。
評価方法	■筆記試験：80% ■授業・実習態度：20%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルテキスト、PC

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	魚病学 (Fish Pathology)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	髙山　清次
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	遠隔授業			曜日・時限	週1回のオンデマンド配信

【授業の学習内容】

ウイルス性・細菌性・寄生虫病など魚類に多くみられる疾病の予防、治療方法を理解することを目的とする。

※担当教員：麻布大学獣医学部博士課程修了（獣医学博士）

【到達目標】

ウイルス性・細菌性・寄生虫病などによる魚病の症状の予防、治療方法を実践することができる。

授業計画・内容	
1回目	魚病学の概要を理解できる。
2回目	疾病の発生原因を理解できる。
3回目	疾病を予防する上で必要なことを理解できる。
4回目	水温と魚類の関係について、理解できる。
5回目	急激な温度変化による魚類への影響について理解できる。
6回目	観賞魚の皮膚の構造について理解できる。
7回目	中間評価及び振り返り
8回目	観賞魚の酸素必要量・酸素供給量について理解できる。
9回目	水槽内での窒素循環・硝化細菌の定着について理解できる。
10回目	pHと水換えの関係性を理解できる。
11回目	観賞魚の疾病の分類について理解できる。
12回目	観賞魚用医薬品の成分について理解できる。
13回目	観賞魚用医薬品による治療方法について理解できる。
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	視聴後はレポートを提出（質問等を含む）。次回視聴の際、前回の質問について回答する。 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習すること。
評価方法	定期試験の結果（80%）に、レポート提出（20%）を加味して評価。

【使用教科書・教材・参考書】

学校図書
インターネット

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	動物栄養学概論 (Introduction of Nutrition for Animals)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	髙山　清次
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	遠隔授業			曜日・時限	週1回のオンデマンド配信

【授業の学習内容】

動物の食餌に必要な栄養素とその働きについて学ぶとともに、飼料の種類・給餌方法などを理解することを目的とする。

※担当教員：麻布大学獣医学部博士課程修了（獣医学博士）

【到達目標】

動物の食餌に必要な栄養素とその働きについて理解を深め、飼料の種類・給餌方法を適切に判断し、実践することを目的とする。

授業計画・内容	
1回目	栄養と栄養素の説明ができる。
2回目	エネルギー栄養素の説明ができる。
3回目	脂肪・タンパク質の働きが理解できる。
4回目	ビタミンの働きが説明できる。
5回目	ビタミンA・D（脂溶性ビタミン）の説明ができる。
6回目	ビタミンB・C群(水溶性ビタミン)、ミネラルの説明ができる。
7回目	ペットフードの歴史が説明できる。
8回目	中間評価及び振り返り
9回目	ペットフードの種類を説明できる。
10回目	ペットフードの目的別分類が実践できる。
11回目	家庭用食材からのペットフードの作り方を理解できる。
12回目	動物にとっての魚肉、乳製品、玉ねぎの害について理解できる。
13回目	動物にとっての玉ねぎ中毒・チョコレート中毒について理解できる。
14回目	期末評価及び振り返り
15回目	まとめ
準備学習 時間外学習	視聴後はレポートを提出（質問等を含む）。次回視聴の際、前回の質問について回答する。 学校の図書やインターネットを利用して講義の範囲内を予習・復習すること。
評価方法	定期試験の結果（80%）に、レポート提出（20%）を加味して評価。

【使用教科書・教材・参考書】

学校図書
インターネット

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	マネジメント・マーケティング （Management and Bisiness Marketing）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	中村　元洋
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日1時限

【授業の学習内容】

マネジメントの概要と基礎を学ぶ。
1)リスク認識力～冷静に何がリスクか認識でき、回避行動が取れる
2)判断力～多様な問題を検討し、ブレずに主体的に最善の判断をし、決断ができる
3)課題認識力～組織の課題を自ら認識し、達成すべき目標が立てられる
4)計画立案力～目標達成のための手段を選択でき、計画が立てられる
5)目標管理力～刻々と変化する環境下、計画や手段を修正しながら、粘り強く達成への努力が続けられる
6)顧客満足力～顧客など組織外の利害関係者の期待に応えることができる
7)調整・交渉力～組織内外の利害関係者に対して交渉・調整ができる
8)組織運営力～組織メンバーとコミュニケーションを取りながら動き、部下の能力を結集できる

※担当教員実務経験：2016年3月～企業や社会人資格取得学校において、コーチングやリーダーシップ、心理学を取り入れた研修及び講座、カウンセリングを実施。

【到達目標】

マネジメント及びマーケティングの基礎の習得。具体的には、以下の目標。
①あるべき姿と現場のギャップを的確に発見して、組織の課題を自ら認識し、達成すべき目標を立てる
②課題の解決に向けて、周囲の認識を共通のものにし、部署・組織全体と連携した行動により、自身の提案を実現する
③顧客ニーズの抽出、顧客満足度を獲得するための知識、技術の習得を通して、社会人基礎力の向上を図る

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション：授業の進め方、自己紹介、なぜ、この授業を行うのか？授業の目的について
2回目	マーケティング基礎知識：マーケティングとは？マーケティングの対象、マネジメントとの関係性について
3回目	マーケティングのポイント：顧客ニーズ・顧客満足度について
4回目	マーケティングの5ステップ：マーケティングの戦略策定、4Pについて
5回目	サービスとリーダーシップ：サービスとリーダーシップの関係性からホスピタリティを考える
6回目	マネジメント基礎知識：マネジメントの役割・マネジメントの社会での必要性・マネジメントとマネージャとリーダシップとは？
7回目	効果的な意思表示：自己の感情表現タイプをチェックし、効果的な意思表示について学ぶ
8回目	アンガーマネジメント：感情についての理解を深め、アンガーマネジメント法の基礎を学ぶ
9回目	関わり方：「物事の進め方のタイプ」について理解を深める
10回目	チームマネジメント①：グループで関わることについての理解を深める
11回目	チームマネジメント②：会議・ミーティングについて学ぶ
12回目	リーダーシップとスポンサーシップ：信頼関係を構築する関わりについて学ぶ
13回目	全体発表：学んだこと・発見したこと・印象残ったことを通して、今後、どう活かしていくのか？考えをまとめ、発表する
14回目	試験：筆記テストと実技を実施し、これまでの学びの復習と理解度を図る
15回目	まとめ・振り返り
準備学習 時間外学習	時間外学習：提出される課題を実施しレポート提出。推薦図書の熟読。
評価方法	● 試　験　：　70点 ● 課　題　：　30点（課題提出状況）

【使用教科書・教材・参考書】

使用教材：講師作成資料
参考図書：「サクッとわかるビジネス教養 マネジメント」「アドラー関連書籍」など

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	マネジメント・マーケティング （Management and Bisiness Marketing）	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	中村　元洋
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日１時限

【授業の学習内容】

マネジメントの概要と基礎を学ぶ。
1)リスク認識力～冷静に何がリスクか認識でき、回避行動が取れる
2)判断力～多様な問題を検討し、ブレずに主体的に最善の判断をし、決断ができる
3)課題認識力～組織の課題を自ら認識し、達成すべき目標が立てられる
4)計画立案力～目標達成のための手段を選択でき、計画が立てられる
5)目標管理力～刻々と変化する環境下、計画や手段を修正しながら、粘り強く達成への努力が続けられる
6)顧客満足力～顧客など組織外の利害関係者の期待に応えることができる
7)調整・交渉力～組織内外の利害関係者に対して交渉・調整ができる
8)組織運営力～組織メンバーとコミュニケーションを取りながら動き、部下の能力を結集できる

※担当教員実務経験：2016年3月～企業や社会人資格取得学校において、コーチングやリーダーシップ、心理学を取り入れた研修及び講座、カウンセリングを実施。

【到達目標】

マネジメント及びマーケティングの基礎の習得。具体的には、以下の目標。
①あるべき姿と現場のギャップを的確に発見して、組織の課題を自ら認識し、達成すべき目標を立てる
②課題の解決に向けて、周囲の認識を共通のものにし、部署・組織全体と連携した行動により、自身の提案を実現する
③顧客ニーズの抽出、顧客満足度を獲得するための知識、技術の習得を通して、社会人基礎力の向上を図る

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション：前期で学んだことに関する振り返り、取り組みに関する感想のシェア、質問や事例対応、後期授業の説明
2回目	コーチングとは：コーチングについての基本的な知識
3回目	セルフコーチングとは：自身に行うコーチングについての基礎的知識
4回目	スタッフマネジメント：信頼関係のプロセス　信頼関係を築くスキル
5回目	傾聴とは？：傾聴の基本的な知識を学習
6回目	効果的な質問：質問への理解を深め、実践しながら質問の使い分けを身につける
7回目	効果的な言葉がけ：言語が与える影響について学ぶ
8回目	ケーススタディ～上司～：身近な人、考えられる人の対応について実践しながら学ぶ
9回目	ケーススタディ～部下～：身近な人、考えられる人の対応について実践しながら学ぶ
10回目	コーチング的目標設定：目標達成、コーチングの効果を高める
11回目	違う視点での目標設定：目標設定の別のやり方について学び、目標達成力をさらに高める
12回目	フューチャーペーシング：セルフコーチングを実施し、マインドマップ・未来予想図を作成する
13回目	全体発表：これまで学んだこと、今後の自身の展開予想を発表
14回目	試験：筆記テストと実技を実施し、これまでの学びの復習と理解度を図る
15回目	まとめ・振り返り
準備学習 時間外学習	時間外学習：提出される課題を実施しレポート提出。推薦図書の熟読。
評価方法	● 試　験　：　70点 ● 課　題　：　30点（課題提出状況）

【使用教科書・教材・参考書】

使用教材：講師作成資料
参考図書：「コーチングの基本」「コーチングが人を動かす」など

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	ライフセービング (Life Saving)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	髙濱　淳
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日3時限

【授業の学習内容】

心停止等生命にかかわる緊急時のケアーを大人の人形、AED、酸素呼吸システムを使ってスキルを身に付けたり、即座に生命に関わらない怪我や病気の人に包帯の巻き方や脈の測り方等を実習する。

※担当教員実務経験：PADIスクーバインストラクター歴24年、PADIコースディレクター歴16年、潜水士歴24年、フィリピン　ボラカイ島のダイビングリゾート勤務歴7年。
福岡ECOにてオープンウォータを21年、潜水士を21年、ライフセービングを12年、ダイビングゼミを21年、水中カメラゼミを10年にわたり人材教育に従事。

【到達目標】

PADI　EFR（エマージェンシィーレスポンダー）資格取得を目指し、陸や海での緊急事態に素早く対処出来る様になる。

授業計画・内容	
1回目	オーリエンテーション/アンケート/ライフセービング資格説明
2回目	一次ケアー　知識の予習
3回目	一次ケアー　現場の評価・バリアの使い方
4回目	一次ケアー　回復体位
5回目	一次ケアー　CPR
6回目	一次ケアー　CPRとレスキュー呼吸
7回目	一次ケアー　中間評価
8回目	一次ケアー　AEDの使用方法
9回目	一次ケアー　ショックの管理、脊髄損傷の管理、気道閉塞の対応
10回目	一次ケアー　酸素呼吸装置の使用方法
11回目	二次ケアー　怪我や病気の評価
12回目	二次ケアー　包帯、副木、三角巾の使用方法
13回目	一次ケアー、二次ケアー　知識の復讐
14回目	期末評価
15回目	前期の復習
準備学習 時間外学習	緊急事態の時に、素早く対応出来る様に、PADI　EFR　テキストを使いスキルの復習が必要。
評価方法	筆記試験　70%　実技評価　20%　出席評価　10%

【使用教科書・教材・参考書】

PADI　EFRテキスト、EFR　DVD、水中カメラ、海中写真、ダイビング番組のDVD

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	ライフセービング (Life Saving)	必修選択	必修	年次	2	担当教員	髙濱　淳
		授業形態	演習	総時間（単位）	30	開講区分	後期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業		(2)	曜日・時限	金曜日3時限

【授業の学習内容】

心停止等生命にかかわる緊急時のケアーを小児・乳児の人形、AED、酸素呼吸システムを使ってスキルを身に付けたり、即座に生命に関わらない怪我や病気の人に包帯の巻き方や脈の測り方等を実習する。 色々な潜水作業形態、緊急事態への対応、使用する水中カメラの使用方法、海洋生物の知識、世界中のダイビングポイント、ロープワーク等の潜水作業の知識や技術を学ぶ。

※担当教員実務経験：PADIスクーバインストラクター歴24年、PADIコースディレクター歴16年、潜水士歴24年、フィリピン　ボラカイ島のダイビングリゾート勤務歴7年。
福岡ECOにてオープンウォータを21年、潜水士を21年、ライフセービングを12年、ダイビングゼミを21年、水中カメラゼミを10年にわたり人材教育に従事。

【到達目標】

PADI　EFR（エマージェンシィーレスポンダー）資格取得を目指し、陸や海での緊急事態に素早く対処出来る様になる。 様々な潜水作業の基礎知識を学ぶ。広告に使える様な写真を撮影出来るようになる。

授業計画・内容	
1回目	子供（小児・乳児）の救急法（大人との違い）
2回目	子供（小児・乳児）　一次ケアー　CPRとレスキュー呼吸
3回目	子供（小児・乳児）　一次ケアー　AEDの使用方法、気道閉塞への対応
4回目	漂流事故の予防と対処方法
5回目	色々な潜水士の仕事、ダイビング番組のDVD観賞
6回目	水中写真とは？
7回目	中間評価と振り返り
8回目	色々なカメラの種類
9回目	オートフォーカスの仕組み
10回目	カメラのモードの意味
11回目	レンズの種類と構図の取り方
12回目	ライトとストロボの違い
13回目	被写体となる海洋生物の生息域について
14回目	期末評価と振り返り
15回目	社会人としてのライフセービング
準備学習 時間外学習	緊急事態の時に、素早く対応出来る様に、PADI　EFR　テキストを使いスキルの復習が必要。携帯のカメラ等で、日頃から学んだ構図を考えた写真を撮影する練習が必要。
評価方法	筆記試験　70%　実技評価　20%　出席評価　10%

【使用教科書・教材・参考書】

PADI　EFRテキスト、EFR　DVD、水中カメラ、海中写真、ダイビング番組のDVD

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	マリンレジャー（Marine Leisure Management）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	藤本　操
		授業形態	演習	総時間（単位）	30	開講区分	前期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業		(2)	曜日・時限	水曜日5時限

【授業の学習内容】

海で行う様々なレジャーを実践を含め学ぶ。
また、用具・道具の名称や使い方から管理・手入れ方法、安全管理まで学ぶ。

※担当教員実務経験：国営海の中道海浜公園官民連携推進事業　マリンアクティビティ担当インストラクター。

【到達目標】

SUPインストラクターとして即戦力で現場に求められる知識・技術を学ぶ。
また年間4回のフィールド実技演習を通じて、操縦技法、インストラクションを実践しながら身に着ける。
フィールド実技演習は下記の点を重点項目とする。
①検定試験：バッジテスト4級・3級・2級・1級
②安全管理：レスキュー・ファーストエイド
③インストラクション：LEVEL1インストラクター資格取得

授業計画・内容	
1回目	シラバスの説明・イントロダクション
2回目	SUPのギアと操作方法について理解し説明できる。
3回目	①フィールド実技演習　バッジテスト4級　三苫海岸
4回目	
5回目	
6回目	
7回目	SUPアクティビティのフィールド別種目の違いを理解し説明できる。
8回目	インストラクターの役割について理解し説明できる。
9回目	②フィールド実技演習　バッジテスト3級　海の中道海浜公園
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	前期授業のまとめ
14回目	前期評価試験及び振り返り
15回目	前期フィールド実技演習の振り返り
準備学習 時間外学習	・インストラクターが担う役割を理解し、各地のSUPアクティビティの取り組みを調べる。 ・フィールド実技演習の内容について、各自で復習を行い身につける。
評価方法	授業態度　20% 筆記試験　40% 実技試験　40%

【使用教科書・教材・参考書】

一社）日本SUP指導者協会 「for OFFICIAL INSTRUCTOR LEVEL 2　テキストブック」

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	マリンレジャー（Marine Leisure Management）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	藤本　操
		授業形態	演習	総時間（単位）	30	開講区分	後期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業		(2)	曜日・時限	水曜日5時限

【授業の学習内容】

海で行う様々なレジャーを実践を含め学ぶ。
また、用具・道具の名称や使い方から管理・手入れ方法、安全管理まで学ぶ。

※担当教員実務経験：国営海の中道海浜公園官民連携推進事業　マリンアクティビティ担当インストラクター。

【到達目標】

SUPインストラクターとして即戦力で現場に求められる知識・技術を学ぶ。
また年間4回のフィールド実技演習を通じて、操縦技法、インストラクションを実践しながら身に着ける。
フィールド実技演習は下記の点を重点項目とする。
①検定試験：バッジテスト4級・3級・2級・1級
②安全管理：レスキュー・ファーストエイド
③インストラクション：LEVEL1インストラクター資格取得

授業計画・内容	
1回目	指導の多様性ついて理解し、説明できる。
2回目	③フィールド実技演習　バッジテスト2級　海浜公園
3回目	
4回目	
5回目	
6回目	基礎技能の指導ついて理解し、説明できる。
7回目	安全な実施とその指導 （SUPインストラクターとしてレッスン方法を理解し説明できる）
8回目	④フィールド実技演習　バッジテスト1級　三苫海岸
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	ルール＆マナー （海上法令関係について理解し、説明できる）
13回目	後期授業のまとめ
14回目	後期評価試験および振り返り
15回目	後期フィールド実技演習の振り返り
準備学習 時間外学習	・インストラクターが担う役割を理解し、各地のSUPアクティビティの取り組みを調べる ・フィールド実技演習の内容について、各自で復習を行い身につける。
評価方法	授業態度　20% 筆記試験　40% 実技試験　40%

【使用教科書・教材・参考書】

一社）日本SUP指導者協会 「for OFFICIAL INSTRUCTOR LEVEL 1　テキストブック」

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	ロープワーク（Ropework Training）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	大橋　光雄
		授業形態	演習	総時間（単位）	30	開講区分	後期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業		(2)	曜日・時限	火曜日 1時限

【授業の学習内容】

ロープワーク」はロープの基本知識やロープの選定、管理法から水陸上で実践的に必要とされる結び方などを学ぶ。
.ロープ・ワークとは
（1）物と物とをつなぐ　（2）ロープとロープをつなぐ　（3）物とロープをつなぐ　（4）ロープのほつれをとめるためにロープで固定することをいう。

※担当教員実務経験：福岡県キャンプ協会会長歴任後、現名誉会長。（公益社）日本キャンプ協会　元理事・専門委員。
アメリカ冒険学校「THE NATIONAL OUTDOOR LEADERSHIP SCHOOL」へ留学、WRWコース終了。
キャンプディレクター1級とプロジェクトワイルド上級指導者資格を有し、多くのキャンプイベントや執筆、普及活動に携わる。

【到達目標】

ロープワークを身に着け実行できる技術と職場や現場で役立てるようになる。

授業計画・内容	
1回目	1.ロープ・ワークの三原則　実技 編（1）すばやく結べること　ロープの特性
2回目	1.ロープ・ワークの三原則　実技 編（2）結び目がゆるまないこと　収納法
3回目	1.ロープ・ワークの三原則　実技 編（3）簡単に解けること　後処理
4回目	ロープ・ワーク　結び
5回目	ロープ・ワーク　つなぐ
6回目	ロープ・ワーク　輪を作る
7回目	ロープ・ワーク（登山編）
8回目	ロープ・ワーク（防災編）
9回目	ロープワークの基本1（海技編）
10回目	ロープワークの基本2（海技編）
11回目	ロープワークを使って飾り結び（ほどかない結び）
12回目	ロープワーク（応用編）1身近な結び
13回目	ロープワーク（応用編）2身近な結び
14回目	ロープワーク（応用編）3実技試験
15回目	期末振り返り　補講
準備学習 時間外学習	毎回2～3のロープワークを解説しながら学んでいく。 動画や写真等を用いて学生たちも自分たちで記録すること。
評価方法	筆記試験:50% 実技試験:50%

【使用教科書・教材・参考書】

（公益社）日本キャンプ協会　[キャンプ指導者入門）　筆者（大橋）のテキスト等はPDFにて配布する。

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	企業プロジェクトⅡ（Company Project II）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	各企業実務従事者
		授業形態	演習	総時間（単位）	60	開講区分	前期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業		(4)	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

様々な動物業界で即戦力として活躍できる人材を育成するために、企業より課題を頂き、それに取り組むことにより、1年間授業で学んだ専門知識・技術に磨きをかけ、プロとしてのスタートラインに立てる実力を身に付ける授業。

※担当教員実務経験：研修先にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

・企業から頂く課題(プロジェクト)を理解し、企画立案をできるようになる。
・アイデアや意見を出し、企画書を作成できるようになる。
・企業に対して、プレゼンテーションができるようになる。
・課題(プロジェクト)のイベント運営や商品化される。
・業務を行う上で必要なコミュニケーション力を身につけることができる。

授業計画・内容	
1回目	企業プロジェクトとは①　～企業プロジェクトの意義や目的・目標を明確にする～
2回目	企業プロジェクトとは②　～過去の企業プロジェクトの事例紹介～
3回目	企業プロジェクトの進め方　～発表までの流れやスケジューリングの確認～
4回目	オリエンテーション①　～企業から課題を頂く～
5回目	オリエンテーション②　～質疑応答～
6回目	企画立案①　～オリエンテーションを基にグループにて話し合い①～
7回目	企画立案②　～オリエンテーションを基にグループにて話し合い②～
8回目	企画立案③　～オリエンテーションを基にグループにて話し合い③～
9回目	企画立案④　～オリエンテーションを基にグループにて話し合い④～
10回目	企画立案⑤　～オリエンテーションを基にグループにて話し合い⑤～
11回目	現地視察・調査①
12回目	現地視察・調査②
13回目	現地視察・調査③
14回目	現地視察・調査④
15回目	現地視察・調査まとめ
準備学習 時間外学習	・各自（各班）で意見交換を随時行う。 ・プレゼンテーションで頂いた意見を次に繋げる学習をする。 ・パワーポイントにまとめる
評価方法	・発表内容：80% ・課題への参加度：20%

【使用教科書・教材・参考書】

現場での施設備品、道具類

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	企業プロジェクトⅡ（Company Project II）	必修選択	必修	年次	2	担当教員	各企業実務従事者
		授業形態	演習	総時間（単位）	60	開講区分	後期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業		(4)	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

様々な動物業界で即戦力として活躍できる人材を育成するために、企業より課題を頂き、それに取り組むことにより、1年間授業で学んだ専門知識・技術に磨きをかけ、プロとしてのスタートラインに立てる実力を身に付ける授業。

※担当教員実務経験：研修先にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

・企業から頂く課題(プロジェクト)を理解し、企画立案をできるようになる。
・アイデアや意見を出し、企画書を作成できるようになる。
・企業に対して、プレゼンテーションができるようになる。
・課題(プロジェクト)のイベント運営や商品化される。
・業務を行う上で必要なコミュニケーション力を身につけることができる。

授業計画・内容	
1回目	プランニング・コミュニケーション①-1
2回目	プランニング・コミュニケーション①-2
3回目	プランニング・コミュニケーション①-3
4回目	プランニング・コミュニケーション①-4
5回目	プランニング・コミュニケーション①-5
6回目	プレゼンテーション①
7回目	プレゼンテーション②質疑応答
8回目	プランニング・コミュニケーション②-1
9回目	プランニング・コミュニケーション②-2
10回目	プランニング・コミュニケーション③-3
11回目	イベント運営・商品化①
12回目	イベント運営・商品化②
13回目	イベント運営・商品化③
14回目	まとめ①
15回目	まとめ発表
準備学習 時間外学習	・各自（各班）で意見交換を随時行う。 ・プレゼンテーションで頂いた意見を次に繋げる学習をする。 ・パワーポイントにまとめる
評価方法	・発表内容：80% ・課題への参加度：20%

【使用教科書・教材・参考書】

現場での施設備品、道具類

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	進級課題	必修選択	必修	年次	2	担当教員	矢作　友規
	（Level Advancement Study）	授業形態	演習	総時間（単位）	60	開講区分	後期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業		(4)	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

学んだ専門知識や技術の集大成として、学習成果が進級に値する実力を修得しているか課題に取り組み、課題の研究発表または実技の披露を行う。

【到達目標】

学習成果（知識・技術）をパワーポイントやポスター展示、実技披露として発表。

授業計画・内容	
1回目	進級課題とは①　～進級課題の意義や目的・目標を明確にする～
2回目	進級課題とは②　～過去の先輩たちの事例紹介～
3回目	進級課題の進め方　～発表までの流れやスケジューリングの確認～
4回目	テーマの決定　～テーマを班内でのディスカッションで探す～
5回目	実践学習①　～自分（班）のテーマに沿って仮説と実証実験～
6回目	実践学習②　～途中経過の報告～
7回目	実践学習③　～前回のアドバイスを基に発表内容を改良する～
8回目	発表準備①　～パワーポイント作成～
9回目	発表準備②　～パワーポイント作成～
10回目	発表準備③　～パワーポイント作成～
11回目	発表準備④　～パワーポイント作成～
12回目	発表準備⑤　～パワーポイント作成～
13回目	発表①
14回目	発表②
15回目	進級課題の振り返り　～各自（班内）で意見交換、発表～
準備学習時間外学習	各自（各班）で意見交換を随時行う。また、もらった意見を次に繋げる学習をすること。
評価方法	・発表内容：80% ・課題への参加度：20%

【使用教科書・教材・参考書】

専門基礎科目テキスト4冊／株式会社 滋慶出版

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	業界研修（Business　Internship）	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	各施設実務従事者
		授業形態	演習	総時間（単位）	90（6）	開講区分	随時
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

学生が目指す業界の企業または、それに準ずる組織・施設・個人等で研修(インターンシップ)を行う。このカリキュラムは業界のプロフェッショナルになるという大きな目標を前に、自身の進路を明確にするとともに各業界施設での「身構え・気構え・心構え」を知り、就職活動とする。

※担当教員実務経験：研修先にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

・業界へのイメージと現実のギャップを軽減させる。
・実際の動物業界での研修を通じ、仕事の流れや職場でのコミュニケーションを図ることができるようになる。
・社会の成り立ち、社会人としてのマナーやルールを実体験で学び身に付ける。
・自らの「キャリア」をデザインできる。

授業計画・内容	
1回目	インターンシップ参加における目的の確認と目標設定
2回目	企業研究、履歴書作成
3回目	インターンシップ参加
4回目	インターンシップ参加
5回目	インターンシップ参加
6回目	インターンシップ参加
7回目	インターンシップ参加
8回目	インターンシップ参加
9回目	インターンシップ参加
10回目	インターンシップ参加
11回目	インターンシップ参加
12回目	インターンシップ参加
13回目	インターンシップ参加
14回目	研修ノートのまとめ、お礼状作成、レポート作成
15回目	報告会
準備学習 時間外学習	・事前に企業研究、インターンシップ先の選定活動 ・インターンシップ後の研修ノートまとめ、レポート作成
評価方法	・研修ノート内容及び提出(80%) ・インターンシップ先企業からの評価表（20%） これらを総合的に判断して評価

【使用教科書・教材・参考書】

キャリアセンターの参考情報

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	特別講義＆見学	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	各施設実務従事者
	（Special Lecture）	授業形態	演習	総時間（単位）	15	開講区分	随時
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業		(1)	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

各業界で活躍で活躍中のプロフェッショナルから豊富な知識や技術、情報を頂くことで、将来のキャリアデザインに役立てる。
学内やオンラインを使用し講義を行い、実際に施設に訪問する。

※担当教員実務経験：訪問先施設にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

・動物業界で必要な知識や技術を理解し、身に付ける。
・動物業界で必要な人間力を理解し、身に付ける。
・これから動物業界で必要となってくる専門性と人間性を知る。
・授業、演習、インターンシップに活かすことができる。

授業計画・内容	
1回目	特別講義・見学施設の事前学習、まとめ
2回目	特別講義もしくは施設見学
3回目	特別講義もしくは施設見学
4回目	特別講義もしくは施設見学
5回目	特別講義もしくは施設見学
6回目	特別講義もしくは施設見学
7回目	特別講義もしくは施設見学
8回目	レポート作成
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・特別講義内容もしくは見学施設の事前学習 ・講義後もしくは見学後のレポートのまとめ
評価方法	・レポート（100%）

【使用教科書・教材・参考書】

キャリアセンターの参考情報

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	海外実学研修	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	現地各施設実務従事者
	（Overseas Practical Training）	授業形態	演習	総時間（単位）	60	開講区分	後期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業		（ 4 ）	曜日・時限	未定

【授業の学習内容】

国際教育の一環として、実際に海外での施設見学、特別講義、自由行動を通し国際性を身に付け、グローバル化する現代社会で活躍できる人材育成を目的とする。

※担当教員実務経験：海外における現地実務従事者より指導頂く。

【到達目標】

・最先端の動物、環境に関わる知識や技術を理解し身に付ける。
・これからの業界に必要な考え方を理解し身に付ける。
・世界における日本の立場を理解する。
・自身のキャリアをデザインする。

授業計画・内容	
1回目	訪問国、訪問施設を調べまとめる、班ごとに発表する
2回目	訪問国での施設見学、特別講義
3回目	訪問国での施設見学、特別講義
4回目	訪問国での施設見学、特別講義
5回目	訪問国での施設見学、特別講義
6回目	訪問国での施設見学、特別講義
7回目	訪問国での施設見学、特別講義
8回目	訪問国での施設見学、特別講義
9回目	訪問国での施設見学、特別講義
10回目	訪問国での施設見学、特別講義
11回目	訪問国での施設見学、特別講義
12回目	訪問国での施設見学、特別講義
13回目	訪問国での施設見学、特別講義
14回目	研修ノートのまとめ、レポート作成
15回目	海外実学研修の振り返り、発表、まとめ
準備学習 時間外学習	・【事前学習】訪問国、訪問施設を調べまとめる ・【事後学習】訪問施設を研修ノート及びレポートにまとめる
評価方法	・研修ノート、レポート（100%）

【使用教科書・教材・参考書】

過去の海外実学研修ノート

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	イベント運営 （Event Management）	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	各イベント実務従事者
		授業形態	演習	総時間 （単位）	15	開講区分	随時
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業		(1)	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

学習成果の発表の場としてのイベントを行い、修得した専門知識や技術を実践する。
企画立案から運営まで学生主体となって実践し、接客力、コミュニケーション力も上げる。

※担当教員：各イベントにおける実務従事者より指導頂く。

【到達目標】

・企画立案、運営ができるようになる。
・マネジメント(セルフ・チーム・リスク)を理解し、実践できるようになる。
・接客を知り、実践できるようになる。
・ホスピタリティマインドを理解し、実践できる。
・予算管理を実践し習得する。
・スケジューリングを理解し、実践できる。

授業計画・内容	
1回目	企業からのプレゼンテーション～イベントの概要の共有、スケジュール～
2回目	イベントの企画立案①
3回目	イベントの企画立案②
4回目	企業へのプレゼンテーション
5回目	イベント準備①
6回目	イベント準備②
7回目	実施日～実演、展示、発表～
8回目	まとめ～レポートにまとめ、各班で発表～
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・各自、目的に沿った案を考える ・イベント後レポートにまとめる
評価方法	・準備（50%） ・レポート(50%)

【使用教科書・教材・参考書】

過去のイベント資料

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	特別課外活動 （Club Activities）	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	各クラブ顧問
		授業形態	演習	総時間（単位）	15	開講区分	随時
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業		(1)	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

学友会活動やクラブ活動を通してチームワークや企画、運営力を養う。

【到達目標】

・チームワークを身に付ける。
・計画性を身に付ける。
・予算管理を身に付ける。
・マネジメントを理解し身に付ける。

授業計画・内容	
1回目	各クラブにおける目的の確認
2回目	各クラブ活動を実践
3回目	各クラブ活動を実践
4回目	各クラブ活動を実践
5回目	各クラブ活動を実践
6回目	各クラブ活動を実践
7回目	各クラブ活動を実践
8回目	各クラブ活動を実践
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	・日報や日誌、報告書を作成すること。
評価方法	・クラブ活動態度(100%)

【使用教科書・教材・参考書】

・各クラブ活動月報、日報、日誌、報告書

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	ボランティア活動 （Volunteer Work）	必修 選択	必修選択	年次	2	担当教員	矢作　友規
		授業形態	演習	総時間 （単位）	15	開講区分	随時
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業		(1)	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

市民社会の形成に貢献するために様々な形のボランティア活動を行う。

※担当教員：各施設・イベントにおける実務従事者より指導頂く。

【到達目標】

・ボランティア活動の目的を理解し、実践することで奉仕する心を身に付ける。
・社会の中の自分の存在を理解し、社会貢献の意識を持つことができるようになる。

授業計画・内容	
1回目	プレゼンテーション～主催者からの趣旨説明～
2回目	ボランティア活動
3回目	ボランティア活動
4回目	ボランティア活動
5回目	ボランティア活動
6回目	ボランティア活動
7回目	ボランティア活動
8回目	まとめ～レポート、報告会～
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	実施前後のレポートのまとめを行うこと。
評価方法	レポート（100%）

【使用教科書・教材・参考書】

過去のボランティア活動報告書

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	資格取得講座	必修選択	必修選択	年次	2	担当教員	矢作　友規
	（Seminar for a Qualification）	授業形態	演習	総時間（単位）	15	開講区分	随時
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業		(1)	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

各専攻で学んだ専門知識や技術の更なるレベルアップを図るために、検定試験に挑戦し、資格取得を目指す。

【到達目標】

・各検定試験、資格試験の合格

授業計画・内容	
1回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
2回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
3回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
4回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
5回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
6回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
7回目	資格試験対策講座、検定試験対策、演習
8回目	資格検定試験
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	
14回目	
15回目	
準備学習 時間外学習	毎回の授業前後の資格検定対策教本の予習、復習を行うこと。
評価方法	資格取得、検定合格（100%）

【使用教科書・教材・参考書】

過去の各検定、資格教本

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	英会話	必修選択	必修	年次	3	担当教員	ILC国際語学センター
	（English Conversation）	授業形態	演習	総時間（単位）	30	開講区分	前期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業		(2)	曜日・時限	火曜日 3時限

【授業の学習内容】

外国人と英会話でコミュニケーションの基礎が出来るようになる。
各章は2つの大きな読解問題があり、3週間毎にライティングに取り組む。

※担当教員：英語教授に関する資格を持ち、かつ英語教授経験が2年以上。主に専門学校で基礎英語の授業を担当。

【到達目標】

面接や幅広いトピックについて自信をもって議論をできるようになる。

授業計画・内容	
1回目	Unit1:考えて話しあう、テーマを決める、長文に取り組む、読解練習
2回目	Unit1:読解、動画視聴、長文に取り組む、読解練習
3回目	Unit1:読解練習、ライティング練習
4回目	Unit2:考えて話しあう、テーマを決める、長文に取り組む、読解練習
5回目	Unit2:読解、動画視聴、長文に取り組む、読解練習
6回目	Unit2:読解練習、ライティング練習
7回目	Unit3:考えて話しあう、テーマを決める、長文に取り組む、読解練習
8回目	Unit3:読解、動画視聴、長文に取り組む、読解練習
9回目	Unit3:読解練習、ライティング練習
10回目	Unit4:考えて話しあう、テーマを決める、長文に取り組む、読解練習
11回目	Unit4:読解、動画視聴、長文に取り組む、読解練習
12回目	Unit4:読解練習、ライティング練習
13回目	Unit1−4の復習
14回目	期末試験
15回目	期末試験の解説
準備学習 時間外学習	高校までに学んだ英語を復習しておきましょう。 予習、復習をしっかりと行うこと。
評価方法	学期末に筆記試験あり（定期試験100%）

【使用教科書・教材・参考書】

Pathways: Listening, Speaking
and Critical Thinking 1

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	英会話	必修選択	必修	年次	3	担当教員	ILC国際語学センター
	（English Conversation）	授業形態	演習	総時間（単位）	30	開講区分	後期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業		(2)	曜日・時限	火曜日 3時限

【授業の学習内容】

外国人と英会話でコミュニケーションの基礎が出来るようになる。
各章は2つの大きな読解問題があり、3週間毎にライティングに取り組む。

※担当教員：英語教授に関する資格を持ち、かつ英語教授経験が2年以上。主に専門学校で基礎英語の授業を担当。

【到達目標】

面接や幅広いトピックについて自信をもって議論をできるようになる。

授業計画・内容	
1回目	Unit5:考えて話しあう、テーマを決める、長文に取り組む、読解練習
2回目	Unit5:読解、動画視聴、長文に取り組む、読解練習
3回目	Unit5:読解練習、ライティング練習
4回目	Unit6:考えて話しあう、テーマを決める、長文に取り組む、読解練習
5回目	Unit6:読解、動画視聴、長文に取り組む、読解練習
6回目	Unit6:読解練習、ライティング練習
7回目	Unit7:考えて話しあう、テーマを決める、長文に取り組む、読解練習
8回目	Unit7:読解、動画視聴、長文に取り組む、読解練習
9回目	Unit7:読解練習、ライティング練習
10回目	Unit8:考えて話しあう、テーマを決める、長文に取り組む、読解練習
11回目	Unit8:読解、動画視聴、長文に取り組む、読解練習
12回目	Unit8:読解練習、ライティング練習
13回目	Unit5-8の復習
14回目	テストのための復習
15回目	期末試験
準備学習 時間外学習	高校までに学んだ英語を復習しておきましょう。 予習、復習をしっかりと行うこと。
評価方法	学期末に筆記試験あり（定期試験100%）

【使用教科書・教材・参考書】

Pathways: Listening, Speaking
and Critical Thinking 1

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	中国語 （Chinese language skills）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	李　霜華
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日 2時限

【授業の学習内容】

水族館業務に使えるオリジナル教材を作い、昨年の勉強を踏まえ中国語の基礎を更に固め、発音・文字・文法を中心に深く指導していく。授業の内容を身につけるだけでなく、自らの勉強を通じて問題解決の能力を高めるよう期待する。日常会話・ビジネス会話を繰り返し読み暗記し、流暢に話せるまで練習する。また、中国語検定試験に合格できるよう、試験問題を解くノウハウを丁寧に説明し、クラス全員で力を合わせて、目標を目指して頑張ってもらう。

※担当教員：福岡漢語学院学院長/留学支援センター長。長年に亘り、日本言語学と教育方法学の理論に基づき、エキスパートとしての中国語教育に従事。
現在福岡ウェディング＆ホテル・IR専門学校や中国上海交通大学外国語学院などで中国語講師を歴任。

【到達目標】

中国語の勉強を通じて中国・日本・アジアの文化について興味を感じ、更に理解できる。卒業後、様々な仕事場で習った知識を生かし活躍している場面を頭に思い浮かべながら、日々の努力によって語学力を徐々に高めることができる。また、中国語検定試験に合格できるように、発音・文字・文法を全面的に学習しながら進めていく。卒業するまでに検定試験に合格するだけではなく、日常会話、仕事用語などが流暢に話せるように目指す。

授業計画・内容	
1回目	今学期の目標、計画、学習内容をみんなで確認してから、各自のスケジュールを立てて、全員で学習を進めることができる。
2回目	就職面接の会話を練習し、流暢に話せる。単語の量を増やす。試験問題を解くことができる。
3回目	自己紹介が流暢にできる。これからの仕事に関係がある単語を勉強し覚えることができる。
4回目	全面的に復習し、検定試験問題のポイントを再チャック、各問題についてのノウハウを身につけることができる。
5回目	検定試験の反省会と日常会話・ビジネス会話を勉強し、仕事場の対応ができる。
6回目	検定試験の内容、勉強方法について再確認し、試験対策を身につけて、上のレベルを目指すことができる。
7回目	将来の職場の場面を設定して、中国語で対応できるように、会話を身につけることができる。
8回目	リスニングと会話を中心に、聴力とコミュニケーション能力をアップすることができる。
9回目	水族館スタッフ専用の言葉、会話を勉強し、仕事現場に臨む実能力を身につけることができる。
10回目	試験問題の間違いを訂正し、勉強を進め、更に語学能力を高めることができる。
11回目	中国語検定試験（中級レベル）を目指いし、最終的に総合練習する。
12回目	前期の学習内容を全面的に復習し、授業効果を一層高めることができる。
13回目	各自に立てた学習目標をチェックして、実現できてない部分を中心に、もう一度挑戦することができる。
14回目	期末試験、中国語の聴力・会話力・理解能力をチェックすることができる。
15回目	試験結果のまとめ、それぞれの足りない部分を認識して、再スタートすることができる。
準備学習 時間外学習	授業の前に復習、予習が必要で、単語、フレーズ、自己紹介の内容を常に暗記する。 ボランティア活動に積極的に参加し、中国語圏の観光客とコミュニケーションを取り、視野を広げていくこと。
評価方法	●授業態度（30%） ●小テスト（20%） ●定期テスト（50%） 割合で成績評価を行う。

【使用教科書・教材・参考書】

日常会話・ビジネス会話プリント、市販中国語検定試験問題集・会話教材等

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	中国語 （Chinese language skills）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	李　霜華
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	木曜日 2時限

【授業の学習内容】

水族館業務に使えるオリジナル教材を作い、昨年の勉強を踏まえ中国語の基礎を更に固め、発音・文字・文法を中心に深く指導していく。授業の内容を身につけるだけでなく、自らの勉強を通じて問題解決の能力を高めるよう期待する。日常会話・ビジネス会話を繰り返し読み暗記し、流暢に話せるまで練習する。また、HSK検定試験3級に合格できるよう、試験問題を解くノウハウを丁寧に説明し、クラス全員で力を合わせて、目標を目指して頑張ってもらう。

※担当教員：福岡漢語学院学院長/留学支援センター長。長年に亘り、日本言語学と教育方法学の理論に基づき、エキスパートとしての中国語教育に従事。
現在福岡ウェディング＆ホテル・IR専門学校や中国上海交通大学外国語学院などで中国語講師を歴任。

【到達目標】

グローバル化社会に於いて適応力が高い人間になるため、コミュニケーション能力、特に外国語のレベルが問われるという意識を持って、中国語を身につける重要性が認識できます。また、中国語の自己紹介をはじめ、日常会話、ビジネス会話、将来仕事現場の中国人観光客に対するサービス提供ができるように、今から少しずつ進んでいき、卒業するまで中国語が話せるように皆で頑張ります。前期の続きとして、HSK試験3級に合格できるように奮闘してもらいます。

授業計画・内容	
1回目	前期の内容を総合的に復習し、仕事用の挨拶、自己紹介を流暢に話すことができる。
2回目	ビジネス会話、水族館用語、検定試験問題を学習し、身につけることができる。
3回目	就職内定になった各職場の場面を設定し、リアルの表現を覚えることができる。
4回目	将来の職場にいる自分の姿を想像しながら、中国語で接客することができる。
5回目	書写問題を練習し、出来るだけ中国語の単語、漢字の書き方を身に付けることができる。
6回目	過去問を練習しながら、自分の足りないところを見つけることができる。
7回目	HSK3級試験を目指して、皆で話し合って、より良い学習方法を見つけることができる。
8回目	試験問題から出てきた言葉をしっかりと覚え、仕事場で使えるように活用することができる。
9回目	水族館施設の単語、案内用の会話を勉強し、仕事現場に臨む実能力を身につけることができる。
10回目	仕事用のビジネス会話を中心に練習し、様々な場面を設定して、臨機応変の能力を高めることができる。
11回目	教室で仕事場を設置し、実用会話を練習することができる。
12回目	後期の学習内容を全面的に復習し、授業効果を一層高めることができる。
13回目	期末試験前の総合的な復習、口頭試問の答えも十分に練習することができる
14回目	評価週　リスニング問題、会話、筆記試験
15回目	試験のまとめ、卒業後中国語を続けて勉強するように、中国語学習の重要性を再認識することができる。
準備学習 時間外学習	単語の暗記、会話練習、過去問題の学習・復習を随時行うこと。 中国語の映画・ドラマもできるだけ見てください。
評価方法	●授業態度（30%） ●小テスト（20%） ●定期テスト（50%） 割合で成績評価を行う。

【使用教科書・教材・参考書】

日常会話・ビジネス会話プリント、市販中国語検定試験問題集・会話教材等

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	キャリアプランニングⅢ (Carrier planning-Ⅲ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	赤岩　辰則
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日3時限

【授業の学習内容】

社会人として必要な社会常識や気構え・身構え・心構えなど学びを通して就職内定・資格試験合格を達成する。

【到達目標】

社会人となる心得や一般教養を学び社会人としての常識を身につける。
チームコミュニケーションを通して、クラスの集団行動(活動)を通して、企業(施設)におけるチームで働くことを学び、力をつける。
卒業時を目標に時期・時間ごとの計画をたて、実行し、達成する力をつけ、社会人として生きる力を育む。

授業計画・内容	
1回目	プロの職業人を目指すにあたって(3つの行動の原則):Hand-book of Life Style
2回目	学校生活で気を付ける事:Hand-book of Life Style
3回目	社会生活で気を付ける事①:Hand-book of Life Style
4回目	社会生活で気を付ける事②:Hand-book of Life Style
5回目	会社に入るということ:新社会人基礎力109
6回目	会社に入るということ:新社会人基礎力109
7回目	会社に入るということ:新社会人基礎力109
8回目	会社に入るということ:新社会人基礎力109
9回目	組織の中で働くということ:新社会人基礎力109
10回目	組織の中で働くということ:新社会人基礎力109
11回目	組織の中で働くということ:新社会人基礎力109
12回目	組織の中で働くということ:新社会人基礎力109
13回目	自分を成長させるキャリアパス:新社会人基礎力109
14回目	自分を成長させるキャリアパス:新社会人基礎力109
15回目	前期振り返り
準備学習 時間外学習	学習プリントの振り返り(レポート・アンケートなど)・・・・次の時間までに提出。 進路計画の作成。 イベント計画の作成。
評価方法	授業態度:40% 毎時間のプリント授業内評価として課題の提出と評価:60%

【使用教科書・教材・参考書】

Hand-book of Life Style
2023年度版　新社会人基礎力109

２０２３年度　シラバス

科目名 (英語表記)	キャリアプランニングⅢ (Carrier planning-Ⅲ)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	赤岩　辰則
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日3時限

【授業の学習内容】

社会人として必要な社会常識や気構え・身構え・心構えなど学びを通して就職内定・資格試験合格を達成する。

【到達目標】

社会人となる心得や一般教養を学び社会人としての常識を身につける。
チームコミュニケーションを通して、クラスの集団行動(活動)を通して、企業(施設)におけるチームで働くことを学び、力をつける。
卒業時を目標に時期・時間ごとの計画をたて、実行し、達成する力をつけ、社会人として生きる力を育む。

授業計画・内容	
1回目	自分を成長させるキャリアパス:新社会人基礎力109
2回目	自分を成長させるキャリアパス:新社会人基礎力109
3回目	社会人基礎力を高める:新社会人基礎力109
4回目	社会人基礎力を高める:新社会人基礎力109
5回目	社会人基礎力を高める:新社会人基礎力109
6回目	社会人基礎力を高める:新社会人基礎力109
7回目	企業人として尊守すべき規範とは:新社会人基礎力109
8回目	企業人として尊守すべき規範とは:新社会人基礎力109
9回目	企業人として尊守すべき規範とは:新社会人基礎力109
10回目	企業人として尊守すべき規範とは:新社会人基礎力109
11回目	社会人として自分を守り高める:新社会人基礎力109
12回目	社会人として自分を守り高める:新社会人基礎力109
13回目	社会人として自分を守り高める:新社会人基礎力109
14回目	社会人として自分を守り高める:新社会人基礎力109
15回目	後期振り返り
準備学習 時間外学習	学習プリントの振り返り(レポート・アンケートなど)・・・・次の時間までに提出。 進路計画の作成。 イベント計画の作成。
評価方法	授業態度:40% 毎時間のプリント授業内評価として課題の提出と評価:60%

【使用教科書・教材・参考書】

Hand-book of Life Style
2023年度版　新社会人基礎力109

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	水生生物飼育管理Ⅲ（ Aquatic Animals and Plants Rearing Ⅲ ）	必修選択	必修	年次	3	担当教員	田中　侑弥
		授業形態	演習	総時間（単位）	60	開講区分	前期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業		(4)	曜日・時限	水曜日2・3時限

【授業の学習内容】

2年間で学んだ、淡水及び海水に生息する生物の様々な管理システムを発揮すると共に、水槽の企画やレイアウトの立案も行う。

※担当教員実務経験：水族館にて9年間、水生生物等の飼育業務に従事。

【到達目標】

相手の要望に合わせて水槽のレイアウトができる。
チームで水槽の管理ができる。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション、シラバス説明、前期の流れと設置場所確認
2回目	水槽企画案
3回目	プレゼンテーション作成・練習①
4回目	プレゼンテーション作成・練習②
5回目	現地でのプレゼンテーション
6回目	フィードバック、必要機材の選定、立ち上げ・メンテナンス時の注意点について
7回目	水槽立ち上げ
8回目	メンテナンス実習①
9回目	メンテナンス実習②
10回目	メンテナンス実習③
11回目	メンテナンス実習④
12回目	メンテナンス実習⑤
13回目	メンテナンス実習⑥
14回目	水槽撤去
15回目	振り返り、今後の課題
準備学習 時間外学習	生物の飼育は日々観察することが重要。校内の水槽を毎日必ず生体の状態及び飼育設備をよく観察し、異常がある場合は速やかに対処すること。 水生生物の飼育法は様々なので、それらを十分理解できるよう常日頃から実習室内の水槽設備をよく観察し、メンテナンスも行う。 可能な限りショップ・水族館の見学を行ない、設備及び生体をよく観察すること。
評価方法	■授業内評価：80% ■授業出席率：20%

【使用教科書・教材・参考書】

第一・第二アクア実習室水槽

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	水生生物飼育管理Ⅲ（ Aquatic Animals and Plants Rearing Ⅲ ）	必修選択	必修	年次	3	担当教員	田中　侑弥
		授業形態	演習	総時間（単位）	60	開講区分	後期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業		(4)	曜日・時限	水曜日2・3時限

【授業の学習内容】

2年間で学んだ、淡水及び海水に生息する生物の様々な管理システムを発揮すると共に、水槽の企画やレイアウトの立案も行う。

※担当教員実務経験：水族館にて9年間、水生生物等の飼育業務に従事。

【到達目標】

相手の要望に合わせて水槽のレイアウトができる。
チームで水槽の管理ができる。

授業計画・内容	
1回目	前期の振り返り
2回目	水槽企画案
3回目	プレゼンテーション作成・練習①
4回目	プレゼンテーション作成・練習②
5回目	現地でのプレゼンテーション
6回目	フィードバック、必要機材の選定
7回目	水槽立ち上げ
8回目	メンテナンス実習①
9回目	メンテナンス実習②
10回目	メンテナンス実習③
11回目	メンテナンス実習④
12回目	メンテナンス実習⑤
13回目	メンテナンス実習⑥
14回目	水槽撤去
15回目	振り返り
準備学習 時間外学習	生物の飼育は日々観察することが重要。校内の水槽を毎日必ず生体の状態及び飼育設備をよく観察し、異常がある場合は速やかに対処すること。 水生生物の飼育法は様々なので、それらを十分理解できるよう常日頃から実習室内の水槽設備をよく観察し、メンテナンスも行う。 可能な限りショップ・水族館の見学を行ない、設備及び生体をよく観察すること。
評価方法	■授業内評価：80% ■授業出席率：20%

【使用教科書・教材・参考書】

第一・第二アクア実習室水槽

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	ライフセービング演習 (Life Saving)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	髙濱　淳
		授業形態	演習	総時間（単位）	30	開講区分	前期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業		(2)	曜日・時限	金曜日4時限

【授業の学習内容】

心停止等生命にかかわる緊急時のケアーを大人の人形、AED、酸素呼吸システムを使ってスキルを身に付けたり、即座に生命に関わらない怪我や病気の人に包帯の巻き方や脈の測り方等を実習する各種小論文作成、各種プレゼンテーション、各種授業ができるマイクロティーチングを学ぶ。

※担当教員実務経験：PADIスクーバインストラクター歴24年、PADIコースディレクター歴16年、潜水士歴24年、フィリピン　ボラカイ島のダイビングリゾート勤務歴7年。
福岡ECOにてオープンウォータを21年、潜水士を21年、ライフセービングを12年、ダイビングゼミを21年、水中カメラゼミを10年にわたり人材教育に従事。

【到達目標】

陸や海での緊急事態に素早く対処出来る人材育成が出来る。
マイクロティーチングを学び、小論文作成、各種プレゼンテーション、各種授業が出来る様になる。

授業計画・内容	
1回目	オーリエンテーション/アンケート/知識の予習の進め方
2回目	一次ケアー　現場の評価・バリアの使い方・一次評価・回復体位・CPRとレスキュー呼吸の指導方法の指導方法
3回目	一次ケアー　AED・酸素呼吸装置の使用方法・ショックの管理、脊髄損傷の管理、気道閉塞の対応の指導方法
4回目	一次ケアー　怪我や病気の評価・包帯、副木、三角巾の使用の指導方法
5回目	マイクロティーチング(小単位の授業方法)
6回目	マイクロティーチング(小単位の授業方法)
7回目	一次ケアー　中間評価と振り返り
8回目	マイクロティーチング(小単位の授業方法)
9回目	マイクロティーチング(小単位の授業方法)
10回目	子供(小児・乳児)の救急法(大人との違い)の進め方
11回目	子供(小児・乳児)　一次ケアー　CPRとレスキュー呼吸の指導方法
12回目	子供(小児・乳児)　一次ケアー　AEDの使用方法、気道閉塞への対応の指導方法
13回目	マイクロティーチング(小単位の授業方法)
14回目	期末評価と振り返り
15回目	前期の復習
準備学習 時間外学習	PADI　EFR　テキストを使いスキルの復習及び授業の準備が必要。
評価方法	実技評価　60%　出席評価　40%

【使用教科書・教材・参考書】

PADI　EFRテキスト、EFR　DVD,PC

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	ライフセービング演習 （ Life Saving ）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	髙濱　淳
		授業形態	演習	総時間 （単位）	30 （2）	開講区分	後期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	金曜日4時限

【授業の学習内容】

各種小論文作成、各種プレゼンテーション、各種授業が出来るマイクロティーチングを学習する。

※担当教員実務経験：PADIスクーバインストラクター歴24年、PADIコースディレクター歴16年、潜水士歴24年、フィリピン　ボラカイ島のダイビングリゾート勤務歴7年。
福岡ECOにてオープンウォータを21年、潜水士を21年、ライフセービングを12年、ダイビングゼミを21年、水中カメラゼミを10年にわたり人材教育に従事。

【到達目標】

マイクロティーチングを学び、各種小論文作成、各種プレゼンテーション、各種授業が出来る様になる。

授業計画・内容	
1回目	マイクロティーチング(小単位の授業方法)
2回目	マイクロティーチング(小単位の授業方法)
3回目	マイクロティーチング(小単位の授業方法)
4回目	マイクロティーチング(小単位の授業方法)
5回目	マイクロティーチング(小単位の授業方法)
6回目	マイクロティーチング(小単位の授業方法)
7回目	マイクロティーチング(小単位の授業方法)中間評価
8回目	マイクロティーチング(小単位の授業方法)
9回目	マイクロティーチング(小単位の授業方法)
10回目	マイクロティーチング(小単位の授業方法)
11回目	マイクロティーチング(小単位の授業方法)
12回目	マイクロティーチング(小単位の授業方法)
13回目	マイクロティーチング(小単位の授業方法)
14回目	マイクロティーチング(小単位の授業方法)期末評価
15回目	マイクロティーチング(小単位の授業方法)
準備学習 時間外学習	PADI　EFR　テキストを使いスキルの復習及び授業の準備が必要。
評価方法	実技評価　60%　出席評価　40%

【使用教科書・教材・参考書】

PADI　EFRテキスト、EFR　DVD、PC

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	気象学 （Meteorology）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	平田　雄也
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 （2）	開講区分	前期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	集中講義

【授業の学習内容】

地球の大気と海洋の事物・現象を探究し、大気と海洋の構造や運動を理解できるようになることで、マリンレジャー等を安全に執り行う知識を身につける。

※担当教員：学校法人日南学園 日南学園高等学校・中学校、学校法人大阪滋慶学園 滋慶学園高等学校にて従事。

【到達目標】

風や対流による様々な現象を理解させると共に気象の特徴を理解できるようになる。
気温・気圧・風向・風速・水温・波浪・海流・潮位などの基本的な気象海洋観測に興味を持たせ、その経験を通して各種の気象や海洋の資料を活用できるようになる。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション、天気の知識と天気図①
2回目	天気の知識と天気図②
3回目	天気の知識と天気図③
4回目	天気の知識と天気図④
5回目	天気の知識と天気図⑤
6回目	風と波の知識①
7回目	風と波の知識②
8回目	風と波の知識③
9回目	風と波の知識④
10回目	風と波の知識⑤
11回目	潮と海の危険①
12回目	潮と海の危険②
13回目	潮と海の危険③
14回目	評価試験と振り返り
15回目	評価試験解説、前期振り返り
準備学習 時間外学習	授業で学んだ知識をもとに日頃から天気予報、天気図などを注意して観察すること。
評価方法	出席20% 評価試験50% 課題提出30%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルプリント

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	気象学 （Meteorology）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	平田　雄也
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 （2）	開講区分	後期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	未定

【授業の学習内容】

地球の大気と海洋の事物・現象を探究し、大気と海洋の構造や運動を理解できるようになることで、マリンレジャー等を安全に執り行う知識を身につける。

※担当教員：学校法人日南学園 日南学園高等学校・中学校、学校法人大阪滋慶学園 滋慶学園高等学校にて従事。

【到達目標】

風や対流による様々な現象を理解させると共に気象の特徴を理解できるようになる。
気温・気圧・風向・風速・水温・波浪・海流・潮位などの基本的な気象海洋観測に興味を持たせ、その経験を通して各種の気象や海洋の資料を活用できるようになる。

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション、四季とマリンスポーツ①
2回目	四季とマリンスポーツ②
3回目	四季とマリンスポーツ③
4回目	四季とマリンスポーツ④
5回目	四季とマリンスポーツ⑤
6回目	様々な気象現象①
7回目	様々な気象現象②
8回目	様々な気象現象③
9回目	様々な気象現象④
10回目	様々な気象現象⑤
11回目	校外演習
12回目	
13回目	
14回目	評価試験と振り返り
15回目	評価試験解説、前期振り返り
準備学習 時間外学習	授業で学んだ知識をもとに日頃から天気予報、天気図などを注意して観察すること。
評価方法	出席20% 評価試験50% 課題提出30%

【使用教科書・教材・参考書】

オリジナルプリント

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	海洋環境学	必修選択	必修	年次	3	担当教員	高田　浩二
	（Marin Environmental Studies）	授業形態	講義	総時間（単位）	30	開講区分	前期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業		（2）	曜日・時限	火曜日4時限

【授業の学習内容】

地球は太陽系で唯一の水と生命をもつ惑星で、14億立方キロメートルもの水を蓄えることから「水の惑星」と呼ばれている。中でも全水量の97.5%を占める海洋は地球の表面積の7割を覆い、最深部は1万メートルを越え、平均水深は3800メートルに達し地球上の天候や自然環境に大きな影響力をもっている。人類にとって海洋は，食料の提供だけでなく産業交易，歴史の形成、エネルギー資源の供給など古代より人々の営みに深く関わってきた。この他にも海洋は，芸術作品や文学作品のモチーフとなりスポーツやレジャーなどの余暇の場、さらに信仰の対象になる場合もあるなど人々を物心両面で支えている。海洋は人類にとって極めて重要な生活基盤であり、人類の存在は海洋に大きく依存している。このような海洋の存在について、前期は化学、物理、地学的な面からアプローチして、海洋の存在の重要性を学ぶ。
※担当教員実務経験：海と博物館研究所長。1988年6月～海の中道海洋生態科学館に勤務し（2004年～2016年は館長を歴任）。その後、2019年3月まで福山大学生命工学部海洋生物科学科教授を務める。水族館に限らず、広く博物館学や学芸員養成課程にも従事し、福岡県内の大学でも教鞭をとっている。

【到達目標】

そもそも私たちの住む地球がどれほど奇跡的な出来事の繰り返しで今日の環境ができているかについて、具体的な環境因子ごとに、例えば「光」という当たり前の存在が宇宙誕生から今までの悠久の時間の流れの中での影響についても関心を深める。
＜具体的な目標＞
目標①私たちのすむ地球の海洋がどのように誕生し今の環境になったかを気付くことができる。
目標②地球上の様々な今ある環境因子が、海洋の存在に由来し生物生態系がそれらに依存していることに気付く。
目標③多くの海洋の環境課題の実態を知り、自分がどのように行動すべきか、具体的なイメージをつかむことができる。

授業計画・内容	
1回目	目標①　海水はどこから来たのか。なぜ地球が水の惑星と呼ばれ、その水はどこから来たのかを考える。
2回目	目標②　海の色と海水の成分。海はなぜ青いのかについて考え、海域ごとに異なる青色の違いの理由と生物適応について考える。
3回目	目標②　「母なる海」の意味。なぜ、人々は海洋に母性を感じているのか、羊水の成分だけでなく言葉の意味からも考える。
4回目	目標①　海にはなぜ塩分があるのか。海水がしょっぱい理由、塩はどうやってできたか、その濃度にどのような意味があるのか。
5回目	目標②　陸水と海水の違いと水循環。地球に淡水と海水の2つの環境がある理由と関係性から、地球上の水循環について考える。
6回目	目標②　海流の仕組みと生物への影響。地球で最も低い場所の海、海流にはどのような力が関与しているのか。また生物への影響は。
7回目	目標②　海洋の垂直分布と水平分布。海洋を陸から見ての垂直的な違いと水平的な違いをマクロな視点から考える。
8回目	目標③　海水温の歴史と経年変化。海水温の変化を地球の歴史と共に探り、地球温暖化について考える。
9回目	目標③　地球温暖化問題とCO_2　（WS）。海水温上昇とCO_2の関係を人々の暮らしをワークショップ形式でお互いに意見交換し学ぶ。
10回目	目標①　地球のプレート運動と海洋の関係。現在の地球の大陸の位置とプレート運動、地震の関係、生物進化にも大きな影響があることを知る。
11回目	目標②　海洋観測機器とその利用法。海洋環境の計測に使われる機器類と使い方を知る。
12回目	目標②　深海環境の特徴と生物適応。暗黒、低水温、高圧、貧餌の深海環境に深海生物はどう適応してきたのかを考える。
13回目	目標③　エネルギー供給源としての海洋。海水温や波浪、海洋風、地下資源として海洋を活用している実態を知る。
14回目	試験日。1～13回までの講義に対する評価試験、振り返り
15回目	試験評価　模範解答。試験解答をしながらの振り返り
準備学習 時間外学習	（目標①）できるだけ海洋に関する多くの博物館、水族館を見学、もしくはウェブサイト経由で訪問する。 （目標②）中学校時代の理科学習（物理、地学、生物、化学）を多面的な視点で振り返ってみる。 （目標②）日常の身の回りの出来事になぜ、どうしてという気持ちや視点で見つめなおす。 （目標③）海洋のもつ環境へのインパクトと環境問題を連携して想像する。
評価方法	毎回の講義に簡単な授業感想を書いて提出する。13回目のワークショップは制作物で評価する。中間テストは行わない。 ●授業感想と制作物（10%） ●定期テスト（90%） 上記の割合で成績評価を行う。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書は特にない。以下の参考書を推奨する。
・日本の気候変動5000万年史　ブルーバックス　佐野貴司　ほか著　　・海はどうしてできたのか　ブルーバックス　藤岡換太郎　著
・地球進化46億年の物語　ブルーバックス　ロバート・ヘイゼン　著　　・はじめて学ぶ海洋学　ソフトカバー　横瀬　久芳　著

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	海洋環境学	必修選択	必修	年次	3	担当教員	高田　浩二
	（Marin Environmental Studies）	授業形態	講義	総時間（単位）	30	開講区分	後期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業		（2）	曜日・時限	火曜日4時限

【授業の学習内容】

地球は太陽系で唯一の水と生命をもつ惑星で、14億立方キロメートルもの水を蓄えることから「水の惑星」と呼ばれている。中でも全水量の97.5%を占める海洋は地球の表面積の7割を覆い、最深部は1万メートルを越え、平均水深は3800メートルに達し地球上の天候や自然環境に大きな影響力をもっている。人類にとって海洋は，食料の提供だけでなく産業交易，歴史の形成、エネルギー資源の供給など古代より人々の営みに深く関わってきた。この他にも海洋は，芸術作品や文学作品のモチーフとなりスポーツやレジャーなどの余暇の場、さらに信仰の対象になる場合もあるなど人々を物心両面で支えている。海洋は人類にとって極めて重要な生活基盤であり、人類の存在は海洋に大きく依存している。このような海洋の存在について、後期は主に生物学や進化学、環境学的な面からアプローチして、海洋の存在の重要性を学ぶ。
※担当教員実務経験：海と博物館研究所長。1988年6月～海の中道海洋生態科学館に勤務し（2004年～2016年は館長を歴任）。その後、2019年3月まで福山大学生命工学部海洋生物科学科教授を務める。水族館に限らず、広く博物館学や学芸員養成課程にも従事し、福岡県内の大学でも教鞭をとっている。

【到達目標】

そもそも私たちの住む地球がどれほど奇跡的な出来事の繰り返しで今日の環境ができているかについて、具体的な環境因子ごとに、例えば「光」という当たり前の存在が宇宙誕生から今までの悠久の時間の流れの中での影響についても関心を深める。
＜具体的な目標＞
目標①私たちのすむ地球の海洋がどのように誕生し今の環境になったかを気付くことができる。
目標②地球上の様々な今ある環境因子が、海洋の存在に由来し生物生態系がそれらに依存していることに気付く。
目標③多くの海洋の環境課題の実態を知り、自分がどのように行動すべきか、具体的なイメージをつかむことができる。

授業計画・内容	
1回目	目標②③　生物多様性と海洋環境。生物多様性とは何か、海洋の存在がどのように、どの程度、関わっているのかを考える。
2回目	目標①　地球環境の変容と生物進化。地球誕生から今日までの海洋環境変化と生物進化がどのような関係であったかを知る。
3回目	目標③　魚類の生理・生態と海洋環境。海洋環境が、魚類の生理や生態にどのように影響を与えまた適応したかを知る。
4回目	目標①②　光と視覚と眼の関係。光の影響を受けて、水中生物の目の構造と視覚にどう影響を与えているかを学ぶ。
5回目	目標③　海洋における持続可能な漁業。SDG’sの14番目の目的達成のために我々は何をしたらよいかを考える。
6回目	目標②　魚類の繁殖戦略と海洋環境、魚類は繁殖戦略に海洋環境をどう活用しているかについて考える。
7回目	目標②　砂浜、磯、干潟の役割。海岸環境の大きな3つの環境の違いと生物学的役割について学ぶ。
8回目	目標②③　海洋における植物・海藻の役割。海藻、海草、植物プランクトンの違いと海洋環境への影響を学ぶ。
9回目	目標③　海洋における食物連鎖　（WS）。食物連鎖の仕組みをワークショップで考える。
10回目	目標②　鯨類の生理・生態と海洋環境。鯨類は繁殖戦略に海洋環境をどう活用しているかを知る。
11回目	目標②③　海洋生物の体から得たヒトの暮らし。生物進化に長く適応した海洋生物から得た私たちヒトの生活の知恵を知る。
12回目	目標①③　生物進化上の大絶滅とこれから。地球誌の中での生物大絶滅と海洋環境の感懐を学び、今後のあり方を考える。
13回目	目標②③　奇跡の環境　日本列島。他国にない島国日本の奇跡的な生態系と海洋の存在について考える。
14回目	試験日。1～13回までの講義に対する評価試験、振り返り
15回目	試験評価　模範解答。試験解答をしながらの振り返り
準備学習 時間外学習	（目標①）できるだけ海洋に関する多くの博物館、水族館を見学、もしくはウェブサイト経由で訪問する。 （目標②）中学校時代の理科学習（物理、地学、生物、化学）を多面的な視点で振り返ってみる。 （目標②）日常の身の回りの出来事になぜ、どうしてという気持ちや視点で見つめなおす。 （目標③）海洋のもつ環境へのインパクトと環境問題を連携して想像する。
評価方法	毎回の講義に簡単な授業感想を書いて提出する。13回目のワークショップは制作物で評価する。中間テストは行わない。 ●授業感想と制作物（10%） ●定期テスト（90%） 上記の割合で成績評価を行う。

【使用教科書・教材・参考書】

教科書は特にない。以下の参考書を推奨する。
・日本の気候変動5000万年史　ブルーバックス　佐野貴司　ほか著　・海はどうしてできたのか　ブルーバックス　藤岡換太郎　著
・地球進化46億年の物語　ブルーバックス　ロバート・ヘイゼン　著　・はじめて学ぶ海洋学　ソフトカバー　横瀬　久芳　著

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	マリンリスクマネジメント （Marine Risk Management ）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	藤本　操
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日４時限

【授業の学習内容】

マリンレジャーにおける実際の事故等を基に危険を予知・回避するための知識・スキルを学ぶ。

※担当教員実務経験：国営海の中道海浜公園官民連携推進事業　マリンアクティビティ担当インストラクター。

【到達目標】

マリンアクティビティインストラクターとして即戦力で現場に求められる知識・技術を学ぶ。
また年間4回のフィールド実技演習を通じて、操縦技法、インストラクションを実践しながら身に着ける。
フィールド実技演習は下記の点を重点項目とする。
①修了試験：普通救命講習1
②安全管理：レスキュー・ファーストエイド
③インストラクション：カヤック・サーフィン・フィッシング

授業計画・内容	
1回目	シラバスの説明・イントロダクション
2回目	①フィールド実技演習　SUP講習　海浜公園
3回目	
4回目	
5回目	
6回目	心構え、道具の点検留意箇所について理解し説明できる。
7回目	気象、出航前準備について理解し説明できる。
8回目	②フィールド実技演習　カヤック講習　　奈多海岸
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	危険予知と対応について理解し説明できる。
13回目	前期授業のまとめ
14回目	前期評価試験及び振り返り
15回目	前期フィールド実技演習の振り返り
準備学習 時間外学習	・インストラクターが担う役割を理解し、各地のマリンアクティビティの取り組みを調べる。 ・フィールド実技演習の内容について、各自で復習を行い身につける。
評価方法	授業態度　20% 筆記試験　40% 実技試験　40%

【使用教科書・教材・参考書】

一社）日本SUP指導者協会 「for OFFICIAL INSTRUCTOR LEVEL 2　テキストブック」

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	マリンリスクマネジメント （Marine Risk Management ）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	藤本　操
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	水曜日4時限

【授業の学習内容】

マリンレジャーにおける実際の事故等を基に危険を予知・回避するための知識・スキルを学ぶ。

※担当教員実務経験：国営海の中道海浜公園官民連携推進事業　マリンアクティビティ担当インストラクター。

【到達目標】

マリンアクティビティインストラクターとして即戦力で現場に求められる知識・技術を学ぶ。
また年間4回のフィールド実技演習を通じて、操縦技法、インストラクションを実践しながら身に着ける。
フィールド実技演習は下記の点を重点項目とする。
①修了試験：普通救命講習1
②安全管理：レスキュー・ファーストエイド
③インストラクション：カヤック・サーフィン・フィッシング

授業計画・内容	
1回目	事故事例検証①
2回目	③フィールド実技演習　サーフィン講習　三苫海岸
3回目	
4回目	
5回目	
6回目	事故事例検証②
7回目	④フィールド実技演習　フィッシング講習　奈多海岸
8回目	
9回目	
10回目	
11回目	普通救急①
12回目	普通救急②
13回目	後期授業のまとめ
14回目	後期評価試験および振り返り
15回目	後期フィールド実技演習の振り返り
準備学習 時間外学習	・インストラクターが担う役割を理解し、各地のマリンアクティビティの取り組みを調べる。 ・フィールド実技演習の内容について、各自で復習を行い身につける。
評価方法	授業態度　20% 筆記試験　40% 実技試験　40%

【使用教科書・教材・参考書】

一社）日本SUP指導者協会 「for OFFICIAL INSTRUCTOR LEVEL 1　テキストブック」

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	マリンレジャー（Marine Leisure Management）	必修選択	必修	年次	3	担当教員	藤本　操
		授業形態	演習	総時間（単位）	30	開講区分	前期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業		(2)	曜日・時限	水曜日5時限

【授業の学習内容】

海で行う様々なレジャーを実践を含め学びます。また、用具・道具の名称や使い方から管理・手入れ方法まで学びます。

※担当教員実務経験：国営海の中道海浜公園官民連携推進事業　マリンアクティビティ担当インストラクター。

【到達目標】

SUPインストラクターとして即戦力で現場に求められる知識・技術を学ぶ。
また年間4回のフィールド実技演習を通じて、操縦技法、インストラクションを実践しながら身に着ける。
フィールド実技演習は下記の点を重点項目とする。
①検定試験：バッジテスト4級・3級・2級・1級
②安全管理：レスキュー・ファーストエイド
③インストラクション：LEVEL1インストラクター資格取得

授業計画・内容	
1回目	シラバスの説明・イントロダクション
2回目	SUPのギアと操作方法について理解し説明できる。
3回目	①フィールド実技演習　バッジテスト4級　三苫海岸
4回目	
5回目	
6回目	
7回目	SUPアクティビティのフィールド別種目の違いを理解し説明できる。
8回目	インストラクターの役割について理解し説明できる。
9回目	②フィールド実技演習　バッジテスト3級　海の中道海浜公園
10回目	
11回目	
12回目	
13回目	前期授業のまとめ
14回目	前期評価試験及び振り返り
15回目	前期フィールド実技演習の振り返り
準備学習 時間外学習	・インストラクターが担う役割を理解し、各地のSUPアクティビティの取り組みを調べる。 ・フィールド実技演習の内容について、各自で復習を行い身につける。
評価方法	授業態度　20% 筆記試験　40% 実技試験　40%

【使用教科書・教材・参考書】

一社）日本SUP指導者協会 「for OFFICIAL INSTRUCTOR LEVEL 2　テキストブック」

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	マリンレジャー（Marine Leisure Management）	必修選択	必修	年次	3	担当教員	藤本　操
		授業形態	演習	総時間（単位）	30	開講区分	後期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業		(2)	曜日・時限	水曜日5時限

【授業の学習内容】

海で行う様々なレジャーを実践を含め学びます。また、用具・道具の名称や使い方から管理・手入れ方法まで学びます。

※担当教員実務経験：国営海の中道海浜公園官民連携推進事業　マリンアクティビティ担当インストラクター。

【到達目標】

SUPインストラクターとして即戦力で現場に求められる知識・技術を学ぶ。
また年間4回のフィールド実技演習を通じて、操縦技法、インストラクションを実践しながら身に着ける。
フィールド実技演習は下記の点を重点項目とする。
①検定試験：バッジテスト4級・3級・2級・1級
②安全管理：レスキュー・ファーストエイド
③インストラクション：LEVEL1インストラクター資格取得

授業計画・内容	
1回目	指導の多様性ついて理解し、説明できる。
2回目	③フィールド実技演習　バッジテスト2級　海浜公園
3回目	
4回目	
5回目	
6回目	基礎技能の指導ついて理解し、説明できる。
7回目	安全な実施とその指導 （SUPインストラクターとしてレッスン方法を理解し説明できる）
8回目	④フィールド実技演習　バッジテスト1級　三苫海岸
9回目	
10回目	
11回目	
12回目	ルール＆マナー （海上法令関係について理解し、説明できる）
13回目	後期授業のまとめ
14回目	後期評価試験および振り返り
15回目	後期フィールド実技演習の振り返り
準備学習 時間外学習	・インストラクターが担う役割を理解し、各地のSUPアクティビティの取り組みを調べる。 ・フィールド実技演習の内容について、各自で復習を行い身につける。
評価方法	授業態度　20% 筆記試験　40% 実技試験　40%

【使用教科書・教材・参考書】

一社）日本SUP指導者協会 「for OFFICIAL INSTRUCTOR LEVEL 1　テキストブック」

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	ECOマネジメント （ECO Management）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	中村　元洋
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	前期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日 1時限

【授業の学習内容】

マネジメントの概要と基礎を学ぶ。
1)リスク認識力～冷静に何がリスクか認識でき、回避行動が取れる
2)判断力～多様な問題を検討し、ブレずに主体的に最善の判断をし、決断ができる
3)課題認識力～組織の課題を自ら認識し、達成すべき目標が立てられる
4)計画立案力～目標達成のための手段を選択でき、計画が立てられる
5)目標管理力～刻々と変化する環境下、計画や手段を修正しながら、粘り強く達成への努力が続けられる
6)顧客満足力～顧客など組織外の利害関係者の期待に応えることができる
7)調整・交渉力～組織内外の利害関係者に対して交渉・調整ができる
8)組織運営力～組織メンバーとコミュニケーションを取りながら動き、部下の能力を結集できる

※担当教員実務経験：2016年3月～企業や社会人資格取得学校において、コーチングやリーダーシップ、心理学を取り入れた研修及び講座、カウンセリングを実施。

【到達目標】

マネジメント（組織管理や運営）の基礎の習得。具体的には、以下の目標。
①あるべき姿と現場のギャップを的確に発見して、組織の課題を自ら認識し、達成すべき目標を立てる
②課題の解決に向けて、周囲の認識を共通のものにし、部署・組織全体と連携した行動により、自身の提案を実現する

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション：授業の進め方、自己紹介、なぜ、マネジメントの授業を行うのか？マネジメントの目的とは
2回目	マネジメント基礎知識：マネジメントの役割・マネジメントの社会での必要性・マネジメントとマネージャとリーダシップとは？
3回目	マネジメントの種類：様々なマネジメントを知る　事例研究など
4回目	マネジメントとリーダー：社会（企業）が求める「リーダー像」を確認 それぞれが思う、「自分がなりたいリーダー像」を確認
5回目	リーダーシップとは？：リーダーとリーダーシップの違いについて理解を深める
6回目	リーダーシップを発揮する要素：自分の中にある3つの要素を見つけ、その活かし方を学ぶ
7回目	効果的な意思表示：自己の感情表現タイプをチェックし、効果的な意思表示について学ぶ
8回目	アンガーマネジメント：感情についての理解を深め、アンガーマネジメント法の基礎を学ぶ
9回目	関わり方：「物事の進め方のタイプ」について理解を深める
10回目	チームマネジメント①：グループで関わることについての理解を深める
11回目	チームマネジメント②：会議・ミーティングについて学ぶ
12回目	リーダーシップとスポンサーシップ：信頼関係の構築する関わりについて学ぶ
13回目	全体発表：学んだこと・発見したこと・印象残ったことを通して、今後、どう活かしていくのか？考えをまとめ、発表する
14回目	試験：筆記テストと実技を実施し、これまでの学びの復習と理解度を図る
15回目	まとめ・振り返り
準備学習 時間外学習	時間外学習：提出される課題を実施しレポート提出。推薦図書の熟読。
評価方法	● 試　験　：　70点 ● 課　題　：　30点（課題提出状況）

【使用教科書・教材・参考書】

使用教材：講師作成資料
参考図書：「サクッとわかるビジネス教養 マネジメント」「アドラー関連書籍」など

２０２３年度　シラバス

科目名 （英語表記）	ECOマネジメント （ECO Management）	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	中村　元洋
		授業形態	講義	総時間 （単位）	30 (2)	開講区分	後期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業			曜日・時限	月曜日1時限

【授業の学習内容】

マネジメントの概要と基礎を学ぶ。
1)リスク認識力～冷静に何がリスクか認識でき、回避行動が取れる
2)判断力～多様な問題を検討し、ブレずに主体的に最善の判断をし、決断ができる
3)課題認識力～組織の課題を自ら認識し、達成すべき目標が立てられる
4)計画立案力～目標達成のための手段を選択でき、計画が立てられる
5)目標管理力～刻々と変化する環境下、計画や手段を修正しながら、粘り強く達成への努力が続けられる
6)顧客満足力～顧客など組織外の利害関係者の期待に応えることができる
7)調整・交渉力～組織内外の利害関係者に対して交渉・調整ができる
8)組織運営力～組織メンバーとコミュニケーションを取りながら動き、部下の能力を結集できる

※担当教員実務経験：2016年3月～企業や社会人資格取得学校において、コーチングやリーダーシップ、心理学を取り入れた研修及び講座、カウンセリングを実施。

【到達目標】

マネジメント（組織管理や運営）の基礎の習得。具体的には、以下の目標。
①あるべき姿と現場のギャップを的確に発見して、組織の課題を自ら認識し、達成すべき目標を立てる
②課題の解決に向けて、周囲の認識を共通のものにし、部署・組織全体と連携した行動により、自身の提案を実現する

授業計画・内容	
1回目	オリエンテーション：前期で学んだことに関する振り返り、取り組みに関する感想のシェア、質問や事例対応、後期授業の説明
2回目	コーチングとは：コーチングについての基本的な知識
3回目	セルフコーチングとは：自身に行うコーチングについての基礎的知識
4回目	スタッフマネジメント：信頼関係のプロセス　信頼関係を築くスキル
5回目	傾聴とは？：傾聴の基本的な知識を学習
6回目	効果的な質問：質問への理解を深め、実践しながら質問の使い分けを身につける
7回目	効果的な言葉がけ：言語が与える影響について学ぶ
8回目	ケーススタディ～上司～：身近な人、考えられる人の対応について実践しながら学ぶ
9回目	ケーススタディ～部下～：身近な人、考えられる人の対応について実践しながら学ぶ
10回目	コーチング的目標設定：目標達成、コーチングの効果を高める
11回目	違う視点での目標設定：目標設定の別のやり方について学び、目標達成力をさらに高める
12回目	フューチャーペーシング：セルフコーチングを実施し、マインドマップ・未来予想図を作成する
13回目	全体発表：これまで学んだこと、今後の自身の展開予想を発表
14回目	試験：筆記テストと実技を実施し、これまでの学びの復習と理解度を図る
15回目	まとめ・振り返り
準備学習 時間外学習	時間外学習：提出される課題を実施しレポート提出。推薦図書の熟読。
評価方法	● 試　験　：　70点 ● 課　題　：　30点（課題提出状況）

【使用教科書・教材・参考書】

使用教材：講師作成資料
参考図書：「コーチングの基本」「コーチングが人を動かす」など

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	内定者研修	必修選択	選択必修	年次	3	担当教員	就職内定先企業実務従事者
	（ Practicul Training ）	授業形態	演習	総時間（単位）	90	開講区分	後期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業		（6）	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

就職内定者を対象に、就職内定先で実践的な研修など現場経験を積むことで、卒業時に即戦力として活躍できるようになる。

※担当教員実務経験：就職内定先にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

1. 就職内定先で業務を行う上で必要な経験を積み、卒業時には即戦力として活躍できる人材になる。
2. 就職内定先で業務を行う上で必要な専門知識・技術を身につけ、就職内定先に貢献できる人材になる。
3. 就職内定先で業務を行う上で必要なコミュニケーション力を身につけ、就職内定先に貢献できる人材になる。

授業計画・内容	
1回目	就職内定先において業務経験を積む （1）
2回目	就職内定先において業務経験を積む （2）
3回目	就職内定先において業務経験を積む （3）
4回目	就職内定先において業務経験を積む （4）
5回目	就職内定先において業務経験を積む （5）
6回目	就職内定先において業務経験を積む （6）
7回目	これまでの業務のまとめと振り返り
8回目	就職内定先において業務経験を積む （7）
9回目	就職内定先において業務経験を積む （8）
10回目	就職内定先において業務経験を積む （9）
11回目	就職内定先において業務経験を積む （10）
12回目	就職内定先において業務経験を積む （11）
13回目	就職内定先において業務経験を積む （12）
14回目	これまでの業務のまとめと振り返り
15回目	今後の課題とその対策をまとめる
準備学習 時間外学習	業務中に学んだこと、気づいたことなど、メモした内容を、ノート、word、excel、にまとめること。
評価方法	日々の業務における日報を就職内定先に提出し、就職内定先の方との面談による振り返りを行い、業務の習得度合いで評価を行う（100%）。

【使用教科書・教材・参考書】

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	特別研究課題	必修選択	必修選択	年次	3	担当教員	就職内定先企業実務従事者
	（Advanced Research Project from a Workplace）	授業形態	演習	総時間（単位）	180	開講区分	後期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業		（12）	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

就職内定者を対象に、就職内定先から従来の業務を改善する課題をいただき、どのような改善を行うことが作業の効率化が図れるか、これまで身につけた専門知識技術を総合的に発揮できるようになる。

※担当教員実務経験：就職内定先にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

1．業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアをまとめることができる。
2．課題を解決するアイデアを実践することができる。

授業計画・内容	
1回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える（1）
2回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える（2）
3回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える（3）
4回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える（4）
5回目	業務の改善を必要とする課題を解決するアイデアを考える（5）
6回目	課題を解決するアイデアを報告し、質疑応答を行う
7回目	課題を解決するアイデアのブラッシュアップを行う（1）
8回目	課題を解決するアイデアのブラッシュアップを行う（2）
9回目	ブラッシュアップしたアイデアを報告し、質疑応答を行う
10回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する（1）
11回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する（2）
12回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する（3）
13回目	課題を解決するアイデアを実践して効果を検証する（4）
14回目	検証結果をまとめる
15回目	検証結果の報告を行い、今回の課題改善の振り返りを行う
準備学習 時間外学習	現場経験を積みながら、業務内容をメモしたものを、ノート、word、excelにまとめること。
評価方法	課題を解決するアイデアを実践することで得られた結果を検証し、その報告内容によって評価する（100%）。

【使用教科書・教材・参考書】

２０２３年度　シラバス

科目名（英語表記）	卒業企業課題	必修選択	選択必修	年次	3	担当教員	就職内定先企業実務従事者
	（Practical Assignment from a Workplace）	授業形態	演習	総時間（単位）	180	開講区分	後期
専攻名	水族館・マリンリゾート専攻	実施方法	対面授業		（12）	曜日・時限	随時

【授業の学習内容】

就職内定者を対象に、就職内定先よりお客様が喜ぶようなイベントを考える課題をいただき、イベントの企画・立案を行う。
プレゼンテーション後に企画が採用されたら、その企画を実践する。
実施後には、振り返りを行い就職後の業務に活かす。

※担当教員実務経験：就職内定先にて実務に従事している方より指導頂く。

【到達目標】

1. お客様が喜ぶイベントの企画を立案することができる。
2. 企画したイベントについて、現場の担当者にプレゼンテーションすることができる。
3. 採用されたイベント企画を実践することができる。

授業計画・内容	
1回目	イベントの対象となるお客様を絞り、そのお客様のことを調べる （1）
2回目	イベントの対象となるお客様を絞り、そのお客様のことを調べる （2）
3回目	イベントの対象となるお客様を絞り、そのお客様のことを調べる （3）
4回目	お客様に合うイベントを企画・立案する （1）
5回目	お客様に合うイベントを企画・立案する （2）
6回目	お客様に合うイベントを企画・立案する （3）
7回目	企画したイベントについて、現場の担当者にプレゼンテーションする
8回目	プレゼンテーションでいただいた意見を参考に企画をブラッシュアップし、再度プレゼンテーションする
9回目	採用されたイベント企画を実践する準備をする （1）
10回目	採用されたイベント企画を実践する準備をする （2）
11回目	採用されたイベント企画を実践する準備をする （3）
12回目	企画したイベントの実践 （1）
13回目	企画したイベントの実践 （2）
14回目	企画したイベントの実践 （3）
15回目	イベントの振り返りとまとめ
準備学習 時間外学習	現場経験を積みながら、業務内容をメモしたものを、ノート、word、excelにまとめること。
評価方法	イベントの企画・立案力：30% プレゼンテーション力：30% 実践力：40% 上記の3段階に分けて、それぞれの評価を行う。

【使用教科書・教材・参考書】